

会長のページ 看護師確保(医師会立看護学校存続)について	河野 雅行	3
日州医談 女性医師保育支援サービスモデル事業	荒木 早苗	4
新春随想(その2)		6
柴田 直哉, 塚本創一郎, 立山 浩道, 浅見 尚規, 堀 英昭 大塚 和子, 山元美智子, 名越 敏秀, 教山 紘臣, 大森 史彦 大重 明広, 福留 真二, 天野 正宏, 川畑 紀彦		
エコー・リレー(498)	松尾 崇, 西川 清	17
宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員名簿(医科)		18
メディアの目 ドラマで伝える地域の魅力	濃明 修	22
宮崎大学医学部だより(病理学講座 腫瘍・再生病態学分野)	川口真紀子	23
ニューメンバー	河野 郁子, 星子 新理	47
診療メモ 弁膜症に対する心臓カテーテル治療の進歩 —経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)を中心に—	古堅 真, 柴田 剛徳	74

あなたできますか?(平成27年度医師国家試験問題より)		19
宮崎県感染症発生動向		20
各都市医師会だより		24
第7回宮崎の医療を考える会(県医広報委員会と若手記者との勉強会)		26
各種委員会(医学賞選考委員会)		27
九州各県医師会学校保健担当理事者会		28
平成28年度九州学校検診協議会第2回専門委員会		31
ベストセラー		35
医師国保組合だより		35
日医インターネットニュースから		36
理事会日誌		38
県医の動き		43
追悼のことば		44
会員の異動・変更報告		48
ドクターバンク情報		50
行事予定		57
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会		59
宮大医学部学生のページ		76
あとがき		80
~~~~~		
お知らせ 宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ		30
医療事故調査制度 相談窓口		34
宮崎県医師会医療情報コーナー		49
宮崎県医療勤務環境改善支援センター		54
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています		55
郡市医師会への送付文書		78

## 医師の心得

1. 私たちは、皆さまの健康状態をよくお聞きします。
2. 私たちは、皆さまに最善の医療を提供できるよう心がけます。
3. 私たちは、皆さまに医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。
4. 私たちは、皆さまの「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。
5. 私たちは、皆さまの健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人 宮崎県医師会

(平成14年 3月12日制定)

〔表紙作品：書〕

梅芳帯雪花

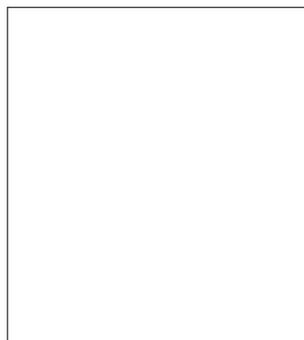
「柳翠含煙葉，梅芳帯雪花」

「柳はみどりの葉をつけてかすみを含み，梅は雪のように白い花をつけて香りを漂わす」という対句の一部を書きました。

春のやわらかな景色が目浮かぶように柔らかな線で仕上げたかったのですが，あと一息の出来でした。まだまだ精進が足りません。今年も頑張ります。 延岡市 おが岡 むら村 ひろ公 こ子

## 会長のページ

## 看護師確保(医師会立看護学校存続)について

かわ の まさ ゆき  
河 野 雅 行

我が県の地域医療において医師確保と同様に重要なことが、看護師の確保です。少し古いデータですが、平成25年3月の看護師免許新規取得者の県内就職率は51%です。医師会立看護学校に限ると82%になります。このように医師会養成看護師は地域医療に大きく貢献しています。しかし、医師会立看護学校は軒並み経営難、教員不足、実習施設不足等々の問題を抱えている上に、最近では新入生の確保にも苦労しています。若者が減っている上に、景気が上向くと看護師志望者が減少するとの不思議な現象が見られます。医療職は3K(きつい、汚い、危険)の代表と言われており、献身的な業務に携わっているにも関わらず、看護職に対して、社会の風当たりは厳しい評価がされています。過酷、給料が安い等、これらを加えると4K、5Kにもなります。苦労の成果を正當に評価されないのであれば、希望者も減ってしまうでしょう。

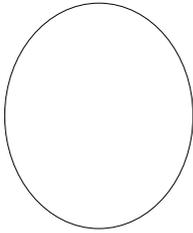
看護師の確保には待遇改善や再教育等の重要性が久しく叫ばれています。医師会・県は共同で種々のスキルアップ研修会を開催したり報奨制度を設けたりしての努力をしています。更に、医療従事者に対する社会の認識を改め、風当たりを緩和する策も重要と思われま

す。平たく言えば医療業務に対して感謝の気持ちを持っていただきたいものです。全国的な看護師数は足りているとの統計もあります。但し、全員が、且つ、地方でも万遍なく就業していると仮定すれば、です。現状は都会に集中しています。若者が一度は都会に出たいとの希望は過去も現在でも強く、止むを得ないとしても、彼らが将来、U-ターンを希望した際には、受け入れ先の確保と相談窓口が必要です。更には、資格を有しながら未就業の看護師も多く、久しく現場から離れると元の業務に戻るのが困難とも聞きます。手軽に無理なく再教育・研修が受けられ、家庭との両立が可能であるような就業し易い環境整備も急がれます。歳を経た人でも体力や能力に応じた職目があるはずで、限定的分野・時間だけでも就業していただきたいものです。県・県医師会でも様々な対策を行っておりますが更に進める必要があります。

毎年話題になるのが、県内看護師養成所出身者の県内残留者数です。中でも県立看護大学卒業者の低い県内就職率が問われています。全国的な看護師の供給と看護業務のレベルアップにはなっても、目前の我が県実情打破には直結しない状況です。当局で努力はされても、なかなか数字が好転しないようです。比べて、先に述べた如く医師会立看護学校は正看、准看を含め卒業生の県内就職率は良く、県内医療に対する貢献度はどちらが高いか明白です。然るに医師会立看護学校の経営は厳しい状況が続いています。このままでは養成施設の維持・存続すら困難となりつつあり、地域の看護師不足を補うためにも何とか十分な公的補助をお願いしたいものです。たとえ財政が厳しい中でも、このような目的での支出は県民には納得していただけるものと信じます。

(平成29年 1 月24日)

## 日州医談



## 女性医師保育支援サービスモデル事業

常任理事 荒 木 早 苗

## はじめに

女性医師の数は年々増加しており、全医師の中で女性の占める割合は20%を超え、29歳以下では約35%となっている。特に産婦人科・小児科については20代の女性医師の割合が半数を上回っている。これからの医療現場においては、女性医師がますます活躍することが期待されているが、妊娠・出産等により仕事と生活を両立させることが困難となってキャリアを中断せざるを得ない場合もあり、女性医師の力が十分に発揮できているとはいえない状況である。宮崎県医師会ではこれまでも女性医師支援として、相談窓口の設置、研修会時の無料託児サービス、ワークライフバランス啓発セミナー開催等の取組みを行ってきたところであるが、新たに平成27年度より宮崎県医師会女性医師保育支援

サービスモデル事業を開始したので、本事業の概要と活動実績について報告する。

## 女性医師保育支援サービスモデル事業の基本的なしくみ

女性医師保育支援サービスモデル事業は、女性医師の残業や出張、子どもの病気などにおいて仕事を休めない、あるいは預ける人がいない場合に、保育サポーターが子どもの一時的な預かりを行うサービスである。

基本的なしくみを図に示す。援助を受けたい利用会員(女性医師)と援助を提供するサポート会員は事前に登録をし、マッチング、顔合わせによる事前打ち合わせを行った後にサービス利用が開始される。実際に援助が必要となった場合には女性医師は担当のサポート会員へ直接依頼するが、担当のサポート会員の都合がつかない

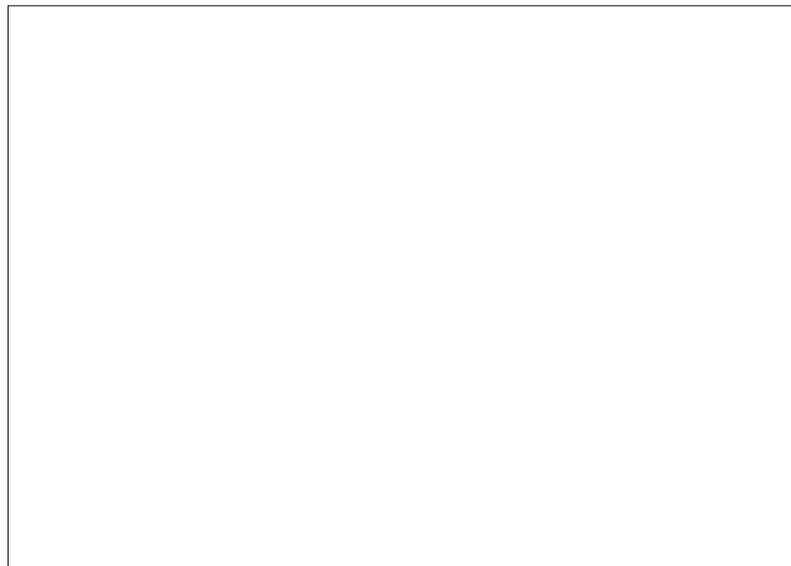


図 宮崎県医師会女性医師保育支援サービスモデル事業の基本的なしくみ

かった場合にはシフト制で待機する別のサポート会員の援助が受けられる体制を整えている。利用状況の分析やシステムの改善策の検討など、県医師会と保育サービス事業所は密な連携体制を取っている。

- ・ **利用対象者**：宮崎市内在住の生後 6 か月から 12 歳までの子どもがいる女性医師等。
- ・ **サポート会員**：保育サービス事業所が開催する保育サポーター養成講座を修了後に、県医師会が主催する養成講座を受講した方。県医師会の講座では、女性医師や地域医療の現状について理解していただく内容も含まれている。
- ・ **援助内容**：保育園・幼稚園・学校の送迎、保育園・幼稚園・学校等のお休み時の預かり、子どもの習い事の送迎、保護者の残業や研修会参加時の預かり、保護者の外出(冠婚葬祭、買い物、美容院、リフレッシュ等)時の預かり、保護者の病気(産休中も含む)時の預かり、病後児保育、その他育児に関する必要な援助を行う。当直や出張の際は宿泊を含む預かりも可能である。
- ・ **利用料金**：時間帯により 1 時間600円～800円であり、援助を受けたその都度、利用者がサポート会員へ直接支払う。本事業への登録料や年会費等は不要である。

### 援助実績

平成28年12月末現在の利用会員(女性医師)は30名、サポート会員は20名で、サービス開始の平成28年1月から12月末までに132件の援助件数があった。援助の内訳を表に示す。女性医師が育休後の職場復帰で最も心配なことは子どもの急な病気という声が多いが、本事業の1年間の援助の中で子どもの病気による利用の割合は7件(5%)であった。利用の多かった幼稚園・学童保育の迎え、保護者の夜間の研修や外出時の預かりなどは、通常の保育や勤務先の制度ではカバーしきれない部分であり、本事業がなければ女性医師が勤務を制限したり、研修や外出

表 援助内容(件)

平成28年 1 月～12月

保育園・幼稚園の迎え	84
学童保育の迎え	29
保育園・学校が休みの時の預かり	2
保護者の研修会参加時の預かり	7
保護者の臨時的就労時の預かり	2
保護者の外出時の預かり	1
病児・病後児保育	7
合 計	132

を控えたりすることになっていたかもしれないものである。シフト待機者による援助は132件のうち9件であった。サポート会員のシフト待機制は、女性医師が必要な時に確実に援助が受けられるだけでなく、サポート会員の負担軽減にもつながっている。

援助を受けた女性医師からは利用しやすくとても助かっているとの声があり、また、利用する機会がなかった女性医師からも、登録することにより安心して働けると好評である。

### おわりに

平成28年4月1日、女性活躍推進法が施行された。女性医師が出産し、子育てをしながらもキャリア形成ができるよう、医療機関における勤務環境整備(短時間正規雇用や交代勤務制などの柔軟な勤務形態の導入、事務補助職の活用、複数主治医制の導入など)、職場の上司や同僚の理解、保育環境の整備、復職支援などこれまで以上に積極的に取り組んでいく必要がある。今回紹介した宮崎県医師会女性医師保育支援サービス事業は、勤務環境の整備や保育施設の充実だけでは補うことのできない日常の保育のちょっとした困りごとに「実家のおかあさん」のように手助けしてくれるものであり、地域住民の方々の理解と協力の上に成り立っている。

医師不足や医師の過重労働が問題となっている中、医療の質を確保し、患者に必要な医療を安全かつ継続的に提供していくためにも、女性医師が働き続けやすい環境を整備していくことは重要である。

## 新春随想

(その2)

新春の随想を募集いたしましたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございます。1, 2月号にわけて掲載させていただきました。

### 年男としての新たな思い

宮崎市 いきめ大腸肛門 しば た なお や  
外科内科 柴 田 直 哉

明けましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。

当院は宮崎市西部に位置しており、外科学会、大腸肛門病学会、内科学会、消化器病学会、消化器内視鏡学会、放射線科学会、泌尿器科学会、人間ドック学会(今年4月から)の専門医が常勤しており、特に下のお世話が専門の医院です。近所には出身中学である生目中があり、昔、探検していた場所で開業しています。私もまだまだ若いと思っていましたが、今年、人生4度目の酉年を迎えることとなりました。思えば、3度目の年男の時代に、大腸癌手術の師匠から、まだ若手である医師が開業するにあたり、「学会に参加証を取りに行くのみで、聴講もせずに観光だけする医者にはなるな」と言われました。その言葉を守り、開業医ではありますが、大腸肛門病学会関連で、毎年6回以上学会や研究会で口頭での発表を自分のノルマとしておりました。昨年からは常勤医が3人から6人に増員となり、非常勤の先生3人(消化器内科、心療内科)を入れると9人の医師で診療を行っています。診断、治療がより充実できる体制になりました。

大腸肛門病学会誌の2月号に論文掲載も決まり、医院で論文を書く目標もクリアしました。次は日本を飛び出し、海外での発表を新たな目標に立てました。

6月にシアトルでASCRS(American Society of Cataract and Refractive Surgery)が開催されるため、昨年11月に抄録登録しました。合格率20%ですが、もしacceptされたなら、発表後に観光する予定です。自分達にご褒美を兼ねて、ちょっと贅沢に。

また、次の年男までには6回以上の海外での発表を目標に頑張りたいと思います。他者に目標を発信する。元来、努力が嫌いな自分にプレッシャーを掛けないと頑張り具合に差が生じますので。医院ですが、医師として、診療に臨床研究に精進し、結果をしっかりと報告する。診療の過程、結果を誰に見られても恥ずかしくない仕事をしたいと思っています。厳しいノルマですが、達成感はこの若い人ばりに、半端ない、と思っています。

## 池を作ろう

延岡市 共立病院 ^{つかもと}塚本 ^{そういちろう}創一郎

平成27年夏。医局で青いベタを飼いはじめました。小さな水槽の中で真っ青なヒレをなびかせ、元気に夏を過ごしました。ベタは東南アジアが原産で、オス同士は激しく闘うため闘魚と言われていますが、普段はほとんど動かず、エサも少しで済みます。私の姿を見ると、ゆっくり縁に寄って来るようになり、少しばかり可愛くなっていました。秋が深まった頃、真っ青だったベタの色が、薄くなり翌年の1月死亡しました。水温が低過ぎたのです。南国の太陽で暖まった水たまり、その中で青いルビーのように輝く。それが、ベタの本来の姿です。不憫でした。水槽が空いたので、メダカを入れました。次に水草とヌマエビも入居する事になりました。水草に光を当てる専用ライトも設置いたしました。メダカは寒さに強く活発です。しかし、精神的交流がありません。そこで、もう一つ水槽を増やし金魚を飼う事になりました。コメットと朱文金。5センチ程の小さな物を2匹ずつ。どちらもスマートな体型と長いヒレが特徴です。水の浄化装置も必要になりました。暫くして、大き目の水槽が又、一つ増え、魚の数も増えました。夏の間、食欲旺盛だった魚たち。水槽からはみ出しそうな程に成長してしまいました。これから後、成長し続ける彼らを如何したものかと思案。池を作ろう。平日は延岡に住んでおりますが週末は都農の自宅で過ごします。裏庭に池を作る計画をたてました。涼しくなる10月に作業することにして電動セメントミキサーを購入し、セメント、砂、砂利を用意

しました。10月10日、池を掘り上げた時、前胸部に痛みが出ました。狭心症発作でした。11月17日、診療中に痛みが出て、すぐに心電図をとり異常が認められました。翌日、県立延岡病院循環器内科にて心カテ後、ステント留置していただきました。命拾いし有難うございました。おかげ様で元気になりました。今年こそは池を作ろうと密かに決意しております。

## 県立宮崎病院前回改築時の思い出

宮崎市 ^{たて}立 ^{やま}山 ^{ひろ}浩 ^{みち}道

県立宮崎病院の新しい改築計画が着々と進められていると聞いています。現在の病院が改築された時の在籍者として、当時のことを懐かしく思い起しながら、外野席から期待をこめて応援しています。

私が県立宮崎病院に着任したのは1977年8月1日、当時の病院は鉄筋3階建ての古めかしい病院でした。建物は古くても県民の信頼は絶大で、外来の狭い待合室は、大勢の患者さんであふれていました。重病が発生しても、「県病院でデニャワン(手に負えない)と言われたら、もうドモナラン(しょうがない)とよ」といわれた時代でした。創立当初から県立宮崎病院は県内の中核医療機関でした。

当時、県立宮崎病院の医療機器・空調など医療環境は、他県の同規模病院と比べ、明らかに

時代遅れの状況にあり、ようやく病院改築の話題が持ち上がったところでした。宮崎大学の移転とも絡み合いながら、「移転先」「旧病院の耐久性」「今後の利便性」「建築予算」などなど慎重に議論された後に、ようやく改築のゴーサインが出ました。この時も「現地改築」と決定され、やはり工期も第一期が病棟部分、第二期が中央診療部分、第三期が正面外構部分と三期に分けて段階的に改築されることになりました。いろいろ難題を乗り越えて、約5年後の1985年に無事竣工・全面開院することができました。西日本一の基幹病院完成といわれました。

またそこでは、新しい労働環境・人員配置のことで「組合交渉」という厳しいやり取りの場があり、病院内が騒然となることも^{しばしば}屢々でした。医療の世界しか知らない私ども医師もその場に立ち会うことになり、今まで経験したことのない激しい労使闘争の場を目の当たりにしました。

「病院スト」というとんでもない事態に突入する寸前まで到達してしまい、われわれ医局会は、絶対に「患者さんを守る」といった信念で、全員協力して頑張ったことが思い出されます。

あれから30年余り、あれほど最先端の病院といわれた建物も世の中の進歩に伴って、まともや改築を迫られる状況になったようです。前回、「ヘリポートの設置」「各種機器の急速な電算化への対応」など積み残し課題もありました。病院改築には「新病院完成時から更に5年先の医療を予測した計画」が必要であると考えています。

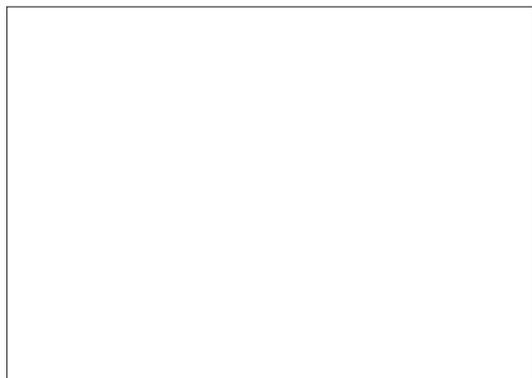
私も、今回の新しい県立宮崎病院の完成までは元気にしていきたいものです。

## ゆっくりと歩きながら遺す

小林市 池田病院 ^{あき}浅 ^み見 ^{なお}尚 ^き規

1976年春宮崎医科大学(現 宮崎大学)に入学した時は19歳でした。広く青い空、温暖な気候、温和人たちに囲まれ、ゆっくりと勉強できたことは幸せです。競争が苦手で、体も心も疲れ果てていた、“適応障害”の僕には宮崎は別天地でした。1982年に卒業後も研修先を探すこともせず宮崎に残りマイペースで歩いて来ました。学問として医学の基礎となるリサーチや研究を避けて来たのは大いに反省すべきです。そんなのんびり屋の僕も還暦を迎えます。まさに継続と数は力なり。幸いにも脊椎脊髄領域ではたくさんの手術をさせていただき、自分の“形”を作ることができました。いくつかの手技書執筆、全国規模の学会主催も身に余る光栄でした。趣味のボディビルでもいくつかタイトルを得て、コツコツと集めた筋トレマシンや連載して来た月刊誌の読者諸氏のおかげで、8巻セットのトレーニングDVDも発売できました。中枢神経である脳と脊髄。骨格筋はその神経の奴隷です。奴隷は丁寧に厳しく扱えば化けることができる。適当に扱えば何もしない。仕事と趣味がうまくコラボしているおかげで、自らの軌跡を遺す機会を得たことに感謝しています。手術は病変に達する為に許された一種の破壊行為です。その破壊行為をいかに安全で最小限なものにしていけるか？明らかに老いを感じる肉体をどこまで鍛えていけるか？まだまだ好奇心と探究心は尽きません。これから出会いすれ違う後輩たちにどんな形で道を譲るのか、文章や動画でどう遺すのか、それは突然なのか、

自然になのかわかりませんが、その時が来るまで、よそ見をしながら前を向いて歩いて行こうと思っています。



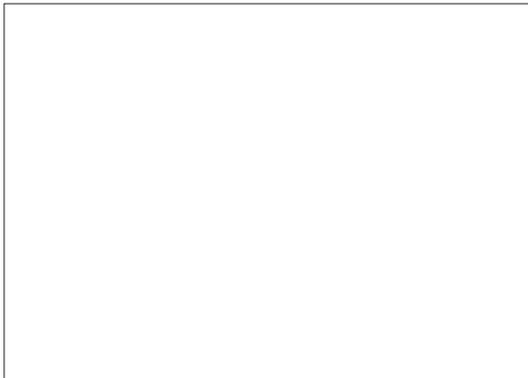
## 北海道での誓い

小林市 堀胃腸科外科医院 ほり 堀 ひで あき 英 昭

新しい年を迎え、お健やかな日々をお過ごしのことと思います。去る11月、北海道に行ってきました。私の恩師である、みやざき外科・ソケイヘルニアクリニック院長の宮崎恭介先生(北海道札幌市)が世話人を務められている北海道ソケイヘルニアを学ぶ会(日本ヘルニア学会北海道支部総会)に参加するためです。会の前日に函館入りし、当番世話人の先生方や、福岡から参加される4人の先生方と地元の新鮮な魚料理や美味しい酒を堪能し、翌朝には、朝から4千円する高級ウニ丼を食べて、会に参加しました。函館は、多くの風情ある街並みが残っており、五稜郭にこそ行けませんでした。教会、八幡坂、れんが倉庫、湯の川温泉街、路面電車など、移動する間だけでもたくさんの景色が飛び込んできました。会は朝8時から始まりました。北海道新幹線の開業もあり、東北を中

心とした本州の外科医の先生方も多数参加されており、多くの議論が交わされ、北海道の地にいることを忘れさせるくらいの熱気で、終了したのは午後6時を過ぎていました。全員参加の懇親会は、函館山の展望レストランで行われ、函館の煌めく夜景を一望しながらの宴は、より一層盛り上がり、わざわざ九州からやって来たということで、突然の自己紹介をふられたりもしましたが、同じ目的で集まった仲間たちだからでしょうか、何だか初めてあったとは思えないくらいの親近感を感じ、楽しいひとときを過ごすことができました。気が付けば、宮崎先生と出会ってから8年…。開業医の息子として生まれ育ち、将来、跡を継いだ後も手術を続けたいとの気持ちから、先生のもとで一か月間、ソケイヘルニア手術の研修をさせていただいたのが、8年前になります。それまで何の面識もなく、医局の同門でもなく、出身大学も違う私に対して、研修の最後の日には、【ソケイヘルニアの全てを教えた】と色紙に書いていただけるくらい親切丁寧に手術手技を指導していただきました。再来年の6月には、日本ヘルニア学会学術集会在が宮崎先生会長のもと、札幌で開催される予定です。函館から小樽へ向かう電車の中で、今でも公私ともにお世話になっている先生への恩返しの意味でも、演題発表はもちろんのこと、学会成功のために全力をつくそうと誓いをたてておりました。同時に、平成29年1月からは、実家の胃腸科外科を継承しており、宮崎善仁会病院、市民の森病院をはじめ、お世話になった先生方に少しでも恩返しができるように、微力ながら宮崎医師会の発展に貢献したいと固く決意しております。昨年6月には、西諸医師会理事を命じられており、若輩にて浅学菲

才の身ではございますが、この場をお借りして、併せてよろしく願い申し上げます。余談ですが、その日は、日本ハムファイターズ優勝パレードが札幌で開催されており、車内にて、鮭とばと貝柱をおつまみに、サッポロ缶ビールで祝杯をあげました。乾杯！



## 大好きな故郷 谷中から上野界隈

西都市 大塚皮膚科医院 おおつかかずこ  
大塚和子

2017年は6回目の年女を迎える年になります。沢山の様々な思い出がつまった72年間を健康で過ぎてこれたことに感謝しつつ、6歳までの幼少期を過ぎた谷中に思いを馳せています。谷中は江戸時代から続く寺町で谷中墓地(今は谷中霊園)を中心に谷中周辺で100前後のお寺と数え切れない程のお墓が集合している所です。そんな中、私の生家は四方八方見渡してもお墓お墓のど真ん中に建つ、たった一軒の民家でした。私は昭和20年2月に生まれましたが、その16日後の3月10日未明、都民が寝静まった頃、アメリカ空軍による東京下町を中心とした東京

大空襲が起きました。B29爆撃機300機以上の夜間集中爆撃を受けたのです。母の話では朝防空壕から出てみると、300メートル程離れたお寺の屋根が吹き飛ばされていて、私達も危機一髪だったそうです。

戦後まもない頃の子供達にとって、広大な谷中墓地とその中央に位置して聳える五重塔は日々の遊び場でした。お菓子もおもちゃもなく、かくれんぼ、鬼ごっこで只々走り回っていて楽しかった時代です。谷中自慢のこの五重塔は幸田露伴の小説「五重塔」のモデルになった塔です。残念なことに私が12歳の時に心中放火により焼失してしまい今は塔の礎石だけが残っています。この礎石が都史跡に指定されています。

父が休日の日は上野公園まで散歩に連れていってくれました。谷中墓地からスタートして大正ロマンの香りが残る路地を歩いていくと上野公園へ続く少し広い道にでます。左側に憧れの芸大をみて、右側には優雅な姿の音楽堂を見ながら進むと広い広い上野公園に着きます。しばらくここで遊んだ後、小さい坂をおりていくと散歩の終着点の不忍池です。7～8年前、懐かしさの余り、この散歩道を辿ってみました。爽やかな日だったので、不忍池を背にして大通りの向う側にある無縁坂まで足を伸ばしてみました。さだまさしの歌で有名な坂ですね。また森鷗外の小説「雁」にも登場する坂で、ヒロインのお玉と岡田青年のことを想いながら坂を登りきり数分歩くとキャンパスらしき所につき当りました。これはびっくり知らなかった!!ついキョロキョロしてしまい、気付いたら東京大学附属病院の病棟のある裏庭でした。小学4年生の時、大切な友がHodgkin's diseaseで亡く

なった建物です。彼女が生きていたら、私の人生は変わっていたかな？と思う時がある程色々な場面で強く影響を受けていました。急に複雑な気持ちになり、やや興奮して大通りに出るとそこは文京区湯島四丁目になっていました。

さて最近の谷中は雑誌やテレビで、すっかり有名になった谷中銀座がありますが、それ以外にも谷中から上野界限は朝倉彫塑館をはじめ、美術館や記念館が沢山あり、明治大正時代の文豪達とその仲間達の歴史や住居跡に触れたり、江戸文化や大正ロマンの香りが残る家並の佇まいや路地を散策することができるので何時行ってもリュック姿の国内外の観光客で溢れています。特に西洋の人達が多く訪れていて、熱心に丁寧に観察する姿には思わず敬意を表する気持ちになってしまう程です。

上京して時間があれば飛んで行く所…谷中…癒されて大好きな故郷に多くの人達が集まってくださるのは本当に嬉しいことです。

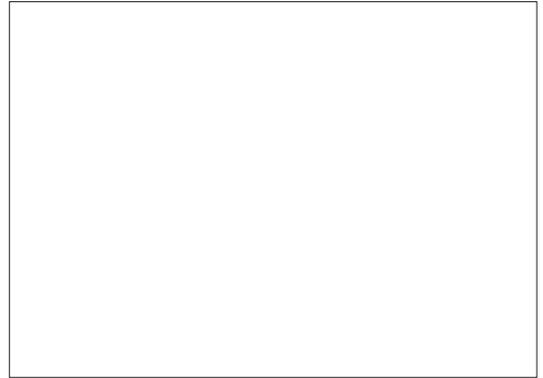
春は谷中墓地の見事な桜。秋は上野公園の黄金色のイチョウ並木…何となく理知的な雰囲気なのです。日本文化が残る谷中と上野界限がいつまでも人気スポットでありますように。

谷中…東京都台東区谷中

JR山手線日暮里駅下車

## 趣味はラグビー

日南市 山元病院 ^{やまもとみちこ}山元美智子



私の趣味はラグビー、もちろん観賞の方。

きっかけは、小学生の息子がラグビーを始めたからだ。最初は、軽い気持ちで入部。週一の練習だし、家族旅行で休むこともあった。しかし、今は親子でどっぷりはまっている。ルールを知れば知るほど奥が深い。まるでチェスのスポーツ版。しかも、一人がうまいからといって強いチームになるわけではない。本当に“one for all, all for one”で、チームが一つにならなければ勝てない。

息子は、ゲームキャプテンをさせてもらっている。やはり一番悩むのは、全員が100%出し切っていない時のようだ。当初は、プンプン怒ったり、怒鳴り散らしたりしていたが、最近ではちょっと成長し、チームの雰囲気を上げようと一生懸命のようだ。

週末は、仕事が入らない限り息子のラグビーの練習や試合を観に行く。練習は同じメニューも多いが、毎回みんなの上達を見るのが楽しい。息子が所属するチームは決して強いチームではない。勝ち負けが全てではないが、やはり

勝ってほしい。小学生最後の試合になる宮日杯に向けて頑張れ！

## 車の時代

宮崎市 名越内科 な ごし とし ひで  
名 越 敏 秀

学生の頃鹿児島市内には、歩行者の信号機は、天文館の横断歩道に一つしかなかった。映画を見た帰り、市電が来るのを待っていると、当時は行き交う車は少なく、我が物顔で^{ぼくしん}驕進してくる車が、果たして信号で止まってくれるのかと、横断歩道の上で戸惑っている人々の様子が見られた。

やがて高度経済成長期に入ると、車の数は飛躍的に増加し、都市部では、狭い道路に我先にと急ぐ車がひしめき合い、クラクションやエンジンの騒音で町は喧噪を極めた。当時の東京は、世界でも屈指の喧噪の都会と言われていたのである。

更に排ガスによる環境汚染の問題が起こり、事故の激増により交通戦争という言葉が生まれ、毎年正月には多くの車が、バンパーにしめ縄を飾って、無事故を願っていた。

時代は昭和より平成に変わり、今では、全国をカバーする高速道路網を始め、交通インフラの整備は着々と進められ、更に進化する車社会は、自動運転という新たなステージを迎えている。

あの頃のすさまじいクラクションの響きは鳴りを潜め、街頭に流れるエンジンの音も、技術

の進歩により、驚くほど静かになった。

私は夜の巷に、遠くから聞こえて来るクラクションの響きに、過ぎし日の都会への郷愁を覚えるのである。

このような交通事情の移り変わりを見ながら、車の時代を生きてきた我々の世代に、免許証の返納の年が迫って来た。

忍び寄る老化は受け止めているものの、通勤や往診などで、長年我が手足の様に慣れ親しんで来た愛車と別れるのは、なかなか踏み切れな

いものがある。

## 念願のエージシュート

都城市 教山内科医院 きょう やま ひろ おみ  
教 山 紘 臣

今年9月25日、三師会の秋のコンペが開催された。この日は天候良く、ティーも通常より短く自分のホームコースという好条件に恵まれ今年のベストスコア71でラウンドできエージシュート達成となった(現年令71歳)。自分では75歳頃が可能性大と考えていたので嬉しい誤算であった。後日、医師会の先生方、ゴルフ仲間が集いエージシュート達成記念祝の会が開かれ大いにゴルフ談議に花が咲いた。

私がゴルフを始めたのは昭和54年宮崎県病院勤務で34歳の頃。大淀川の河川敷で良く練習したものです。当時、県病院では迷羊会コンペなるものがあり、内科の志多Dr、産婦人科の西村Dr、整形の小林Dr等がシングル級の腕

前だったと記憶している。自分のラウンド初デビューのスコアは130！初心者にしては上出来とおだてられそれ以降ゴルフ熱が冷めることはありません。都城に帰り父の跡を継ぎ開院したのが36歳。都城医師会には、ゴルフ好きの先生が多く、この頃はゴルフの盛んな時期でもありました。先輩先生の推めもあり霧島ゴルフクラブに入会。七年目にしてシングルとなり以前にも増してゴルフに魅入れられクラブ選手権に参加するようになったのもこの頃である。開催時期が10月で子供達の運動会と重なり殆んど出席することもなく、妻と子供との時間を犠牲にしてしまったものだと今になって後悔である。

ゴルフ仲間が良きライバルとなり、ゴルフ環境に恵まれたのがある程度、上達できた要因だと思っている。ゴルフは己の弱さ愚かさを教えてくれるゲームと云われる。自分を俯瞰する能力を高めることが大事であろう。ゴルフ界のレジェンド、アーノルドパーマーの名言で、「自信ある我流は確心なき正統派に優る」とある。所詮、我年代のゴルファーはほぼ我流、我流を極め私自身経験のない60台のスコアを目指し今後も挑戦していきたいと思っている。たかがゴルフされどゴルフ!!

## ブラヴォー バンベルク交響楽団

高鍋町 大森内科医院 おおもりふみひこ  
大 森 史 彦

初めてバンベルク交響楽団の名前を聞いたのは1972年頃です。進学のため上京したばかり

で、アパートの小さな部屋で14インチの白黒テレビを通してブラームスの交響曲第1番ハ短調を聴いたのですが、テレビ放送なのにかなり感銘を受けたのを今でもはっきり覚えています。その後オーケストラ自体は何度か日本を訪れているのですが生演奏を聴く機会はなく、オイゲン・ヨッフムの指揮で演奏されたモーツァルトの交響曲のCDを数枚購入し、これは今でも愛聴盤となっています。

10月30日、メディキット県民文化センターで初めてこのオケの生演奏を聴くチャンスを迎えました。指揮は巨匠ヘルベルト・ブロムシュテット氏。ブルックナーの交響曲第7番は大音量で響く管楽器のコラーレと、力強い弦楽合奏で長大なこの曲をしっかりと聴かせてくれました。ワグネルチューバが5本も並んでおり、チューバの低音と重なってこれは貴重な経験でした。1曲目のシューベルト「未完成交響曲」。何度も聴いたことがある名曲ですが、弦楽器があたかも1本の線、1台の楽器で弾いているかのように澄んだ音色で感動しました。第2楽章では、あまりの美しさのため演奏途中で涙があふれて止まりませんでした。妻に話したら、年をとっただけよと一蹴されましたが。

メンバーの中に日本人奏者も何人か見かけましたが、この素晴らしいオーケストラで演奏できるのは何よりの喜びでしょう。バンベルクの町は人口がわずか7万人で、その2割の方がオーケストラの定期会員になっているとか。私も仕事を引退したらこの町に住んでできるだけ演奏会に足を運びたいと心から思いました。ああ、夢は枯れ野を駆け巡る！

## 為せば成る，為さねば成らぬ何事も

延岡市 大重産婦人科医院 おお しげ あき ひろ  
大 重 明 広

平成11年、熊本から延岡に帰って来た頃、体重が84キロあった。学生時代はテニス部に所属し、医者になる前には天草トライアスロンに出たりして、その頃の体重が73キロだったので、これが自分のベスト体重と思っていた。延岡でもテニスのレッスンに最初は時々行っていたが、きつくてそのうち行かなくなった。みるみる体重が増え、平成19年(8年目)には93キロとなった。さすがに命の危険を感じ、流行のダイエットを試すようになった。朝バナナダイエットは、朝、水と一緒にバナナを食べたら後は何を食べても良かったので、楽に出来た。ビリーズブートキャンプは、きつくてダメであった。タイミング良く、Wii Fitが医師会忘年会のビンゴで当たり、遊びながらダイエットができた。これが、功を奏し、約1年で86キロとなった。しかし、延岡に帰ってきた時の体重に近づいた安心感と、元々長続きしない性格が災いし、その後、3年間は、ヨーグルトダイエット等は試したものの、どちらかと言うと増えてしまった。

平成24年、ロングブレスダイエットを開始したら何となくやせられる気がして、さらに、テニスも再開したところ、1年で81キロとなった。ところが、調子に乗ってテニスをやり過ぎた結果、平成26年12月、右膝に水がたまって、松葉杖生活となり、テニスどころではなくなった。さすがに、この私でも気合いが入り、丁度テレビでDHCプロテインダイエットの宣伝が

あったので早速開始。また、糖質制限ダイエットも流行に乗って開始した。気をつけてなるべく歩くようにしたり、姿勢を良くしたり、腹筋や太ももの筋肉を意識するようにもした。効果はてきめんで、半年で、ベスト体重の73キロとなった。テニスも出来るようになり、体重も維持している。自分のような怠け者は、自分の身に危険が及ばないと、何事も成しとげられないと、つくづく思った次第である。

## 私の趣味探し

宮崎市 ふくどめ耳鼻咽喉科 ふく どめ しん じ  
クリニック 福 留 真 二

宮崎市に開業して1年以上が経ちました。開院前にクリニックの近くに引っ越ししたため、自宅から5分程度のクリニックと自宅を車で往復するだけの、軟禁生活のような毎日でした。これだけじゃいけないと、気分転換の趣味を探すようになってきました。以前はゴルフをしていましたが、開業してからはほとんどやらなくなりました。仕事に慣れてきたら、またぼちぼちゴルフも再開しようとは思っています。開業してから意外とはまってしまったのがコンサートでした。それがまたなぜか「氣志團」でした。昨年都城で氣志團のコンサートがありまして、氣志團のファンだったわけでもないですが、何

を思ったか家族で見に行こうと思ってしまって、それが氣志團にはまってしまったきっかけでした。氣志團のコンサートは想像以上に盛り上がり、娘も楽しそうにノリノリで踊っていて、僕も年甲斐もなく踊ってしまいました。途中疲れて座ってしまったのですが、後から娘に隣のお父さんとその隣のおばさんが座ったから踊りにくくなったと文句を言われました(なぜかボックス席で割と目立つ席でした)。そのコンサート以降は、氣志團のDVDを買ったり動画を見たり、9月には氣志團が主催したロックフェスで千葉まで行ってきました。子供たちは部活に忙しく千葉まではつきあってくれなくて、妻と二人で行きました。月曜日が祝日だったため、土曜日に東京に移動して一泊して、日曜の朝から夜10時まで千葉でロックフェスを堪能しました。氣志團だけでなく、矢沢永吉やチューブ、ゴールデンボンバーなど34組の歌手、グループが参加して、大盛り上がりの1日でした。月曜日にゆっくりと宮崎に帰ってきましたが、いい気分転換になり、また仕事を頑張ろうと思う活力を得た連休でした。

これからもいろいろと趣味を見つけて、気分転換しながら長く開業生活を頑張っていきたいと思しますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 新専門医制度について思うこと

宮崎大学医学部 感覚運動医学講座 皮膚科学分野  
あまのまさひろ  
天野正宏

2016年6月9日、日本皮膚科学会は他学会にさきがけて来年度、従来通り専攻医(専門医を目指す医師を意味する)を募集することを決定した。すなわち新専門医制度開始の延期である。内科、外科、産婦人科などは新制度で専攻医を募集するかどうか、昨年7月31日までに決定することになった。しかし結局、全ての学会で新制度の開始が見送られた。この迷走による一番の被害者は、他でもない現場の研修医や学生たちである。

1年以上前から私たちは主研修施設として、教育医長を中心に専攻医の募集人数、研修連携施設の確保と指導医の協力体制作り、また研修コースとそのプログラムおよびゴール目標などを作成した。今まで都会に集中した専攻医を、魅力あるプログラムで地方に呼び戻すことができると期待したからである。しかし膨大な時間と労力を割いて完成したのもつかの間、延期となった。結局、この制度は地域医療崩壊の処方箋ではなかった。専攻医の募集人数からみると、都会への一極集中を抑制できないのである。

卒前教育については近々、宮崎大学は「国際基準に基づく医学教育分野別認証」を受ける予定である。第三者機構の外部評価者が、宮崎大学の自己点検評価書を基に医学教育を評価するのである。幕末のペリーの黒船来航に例えられたこの認証制度は既に始まっている。卒後教育の中心である新専門医制度についても、国民目線からも理解しやすい制度でなければならな

い。そして何よりも2004年の新医師臨床研修医制度の轍を踏まないよう、都会と地方間で専攻医の偏りがないようにしっかり議論を尽くしていただきたい。

これらの経緯を日本皮膚科学会、島田眞路理事長が、医学雑誌「臨床皮膚科 第70巻、第13号」のマイオピニオンで「日本専門医機構2017年度新制度開始延期について」と題して述べておられる。私たちも積極的に協議に加わり、より良き新専門医制度の船出に尽力したいと考えている。新春早々、お堅い話で申し訳ありません。

## 新春雑感

宮崎市 むつみ苑 ^{かわ}川 ^{ばた}畑 ^{のり}紀 ^{ひこ}彦

新年おめでとうございます。

医師会の広報委員の方から「新春随想」への投稿の依頼を受けた時、原稿内容の選定で迷いましたがどなたにでも回ってくる「年男」で結構とのことでお引き受けしました。

昭和20年生まれで今年72歳になります。干支は12年スパンですからもう6スパン過ぎたことになります。さしたる想いが残ることもなく平々凡々と世の中を過ごしてきた訳ですが、身体的には特に大事もなくこれ迄過ごせたのは授かった健康の為だろうと両親に感謝しています。

振り返ってみて、私の健康に関してこれ迄の

70余年の間に干支とほぼ同じ間隔の10年毎に何らかの健康障害があったことに気が付きます。それも基本的には決まった疾病が中心になっており、それは円形脱毛症とギックリ腰です。

私が30歳前後の時に円形脱毛症とギックリ腰（腰痛はその他の時期にも数回経験していますが）に罹りました。前者は頭部のアチコチに径10センチ程の脱毛域が時間差をもって生じ、1か所が治ってウブ毛が生え出した頃にまた別の場所に、と言う具合で、1年位をかけて頭部の皮膚面全体で脱毛、再生を繰り返したことになります。元に戻るのか途中で不安になったのでよく覚えています。後者は専門医でコルセットを誂えて対応するほどの激痛を味あわせられました。

次は40歳位の時で、両疾患に同じように罹りました。その次は55歳前後でギックリ腰のみでしたがほぼ同じ時期に重度の帯状疱疹に顔面が冒されました。それらの中で感じたことですが、面白いものでイベントが重なる毎に疾病への予防、対処が上手になるのか、年齢が加わってきて両疾患の頻度或いは程度が減少してきたような気がします。

以上ただこれだけの事ですが、最近では消化器系、眼科系、泌尿器科系と程度は大きくはないが小出しに多種類の不具合が出没するようになってきました。しかしこれらのものと上手に付き合っていければ少しはこれからの時間が稼げるのかもと思っています。

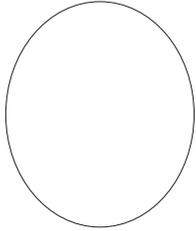
# エコー・リレー

(498回)

(南から北へ北から南へ)

## 自転車通勤の妙

延岡市 延岡市医師会病院 まつ松 お尾 たかし崇



私が医師になった頃の体重は69kgで運動習慣もなく約10年が過ぎた頃、もう3年以上前になるが、体重が75kgに増えた。その頃の検診ではコレステロール値、中性脂肪値、GPT値いずれも高値と

なっていた。

3年程前から延岡市医師会病院に勤務させていただき、宮崎市の自宅から延岡市までの自転車通勤を決意。もちろん南宮崎駅～延岡駅間は電車に乗るため、実際の自転車使用は自宅～南宮崎駅と延岡駅～延岡市医師会病院の区間。走行時間はそれぞれ約15分程度であり、片道合計30分、往復1時間の自転車走行時間となる。1時間自転車を漕ぐと消費カロリーは300Kcalで、これを平日は毎日消費する計算となる。

雨の日もレインコートを身に纏い自転車に跨り、どんな坂道でも一回も足を地面に付けずにペダルを漕いで登りきるようにしているが、もし体力的にそれが出来なくなったら、それが自転車通勤を止める時期だと思う。

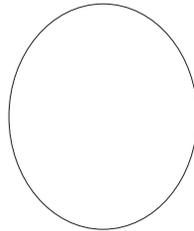
さて自転車通勤を始めて約3年が経過した現在、体重は6kg減量し、脂質異常症と肝機能障害も改善した。しかも自転車走行中は余計なことは考えない「無」の状態になり、ストレス解消にもなる。以前と比べて、物事の考え方や捉え方もポジティブになった気がする。

運動習慣として自転車を用いて、かつメンタル面にも良い副次効果がある、これぞ「自転車通勤の妙」だと思う今日この頃である。

[次回は、宮崎市の福留 慶一先生にお願いします]

## コウノトリ

宮崎市 宮崎鶴田記念 にし西 かわ川 きよし清



昨年末に帰省しました。両親が二人暮らしをしているのでその安否や健康状態の確認に1年に数回実家に泊まります。普段は伊丹空港経由で、福知山線・山陰本線で帰ります。列車の愛称は“こうのと

り”であり、空を飛んでいるコウノトリの優雅で美しい白と黒でくっきり色分けされた翼をモチーフにしたデザインです。

コウノトリは「特別天然記念物」に指定されています。かつては日本中に広く生息していましたが、私が小学生であった昭和30年代には徐々に姿を消し、終に昭和46年に野生下では姿を消してしまいました。人工飼育は、苦難の時代を乗り越え、ロシアから寄贈されたつがいのヒナで平成元年に成功しました。平成17年からは放鳥が開始され、平成24年には野外生まれの両親からヒナが誕生し野外の生息羽数は約70羽に達し、野生復帰の新しい局面を迎えています。平成26年4月に児湯郡に飛来した一羽は、県立コウノトリの郷公園(兵庫県豊岡市)で生まれ、放鳥されたことが、足輪の識別票から分かったそうです。

赤ちゃんを運んでくるという伝承はコウノトリではなく、ヨーロッパコウノトリについてのものです。ヨーロッパコウノトリ(シュバシコウ)は、主にヨーロッパに生息し、嘴が朱色をしており、大きさはコウノトリよりも少し小さいです。以前は同種別亜種に分類されていましたが、現在は別種とされています。

[次回は、西都市の長田 直人先生にお願いします]

宮崎県国民健康保険診療報酬審査委員名簿(医科)  
(任期 平成29年1月1日～平成30年12月31日)

(○印は新任)

科 名	氏 名	科 名	氏 名
内 科	石 川 恵 美	外 科	内 山 一 雄
〃	○ 大 橋 剛	〃	甲 斐 眞 弘
〃 (東洋)	川 越 宏 文	〃	後 藤 又 朗
〃	菊 池 郁 夫	〃	田 畑 直 人
〃	黒 木 和 男	〃	豊 田 清 一
〃	後 藤 敏 之	〃	永 友 淳 司
〃	佐 藤 祐 二	〃	○ 丸 田 眞 一
〃	鈴 木 斎 王	〃	峯 一 彦
〃	富 田 雄 二	脳神経外科	上 原 久 生
〃	橋 口 典 久	〃	大 田 元
〃	姫 路 大 輔	心臓外科	○ 金 城 玉 洋
〃	弘 野 修 一	〃	○ 山 内 励
〃	松 尾 剛 志	皮膚科	津 守 伸 一 郎
〃	光 川 知 宏	〃	成 田 博 実
神経内科	湊 誠 一 郎	泌尿器科	蓑 田 国 廣
精神科	井 上 雅 文	〃	向 井 尚 一 郎
〃	○ 堀 徹 也	産婦人科	松 敬 文
小児科	西 口 俊 裕	〃	山 口 昌 俊
〃	四 元 茂	眼 科	中 崎 秀 二
整形外科	阿久根 広 宣	〃	中 村 彰 伸
〃	佐 藤 信 博	耳鼻咽喉科	植 木 義 裕
〃	税 所 幸 一 郎	〃	○ 鍋 倉 隆
〃	松 本 宏 一	〃	春 田 厚

(50音順)



## あなたできますか？

—平成27年度 医師国家試験問題より—

(解答は79ページ)

- 1 結節性硬化症で見られるのはどれか。2つ選べ。
- てんかん
  - 脊柱側彎
  - 聴覚障害
  - 血管線維腫
  - 性腺機能低下

- 2 輸液製剤で維持液に分類されるのはどれか。

	Na ⁺ (mEq/L)	K ⁺ (mEq/L)	Cl ⁻ (mEq/L)	Lactate ⁻ (mEq/L)	ブドウ糖 (%)
a	154	0	154	0	0
b	130	4	109	28	5
c	90	0	70	20	2.6
d	45	17	37	20	5
e	0	0	0	0	5

- 3 タンデムマス法による新生児マスキングの検査対象となるのはどれか。

- 核酸代謝異常
- 金属代謝異常
- 有機酸代謝異常
- ムコ多糖体代謝異常
- ミトコンドリアDNA異常

- 4 SPIKESモデルに基づく悪い知らせの伝え方について正しいのはどれか。

- 疾患によって説明内容は一律である。
- 説明は面接用の個室で行わなければならない。
- 患者自身の病気に対する認識を聞くことが前提である。
- 患者に話す内容について予め家族の許可を得てから行う。
- 患者自身の考えを聞く前に十分に疾患の情報を伝えなければならない。

- 5 52歳の男性。墜落外傷で尿道からの出血が止まらないため救急車で搬入された。自宅の庭木の手入れ中に誤ってはしごから墜落した。殿部の痛みのため歩けず、尿道からの出血が止まらないため救急車を要請した。意識は清明。体温36.0℃。脈拍110/分、整。血圧90/58mmHg。呼吸数20/分、整。SpO₂100%（リザーバー付マスク10L/分 酸素投与下）。頭頸部と胸腹部とに変形、外傷、皮下血腫および圧痛を認めない。四肢に擦過創を認める。殿部の腫脹と疼痛とを認める。外尿道口から持続的な出血を認める。ポータブルエックス線写真で骨盤骨折を認める。呼吸と循環の補助を開始するとともに、尿量測定のため尿道カテーテル留置を検討することとなった。

挿入する前に行うべきなのはどれか。

- 剃毛
- 直腸指診
- 尿定性検査

- 血液凝固検査
- 骨盤部用手圧迫

- 6 多発性骨髄腫で見られるのはどれか。2つ選べ。

- 血小板数高値
- 血清アルブミン高値
- 血清カルシウム低値
- 正常免疫グロブリン低値
- 尿中Bence-Jones蛋白陽性

- 7 健常な3歳児に認められる反射はどれか。

- 背反射
- 把握反射
- Landau反射
- 緊張性頸反射
- パラシュート反射

- 8 甲状腺の診察で正しいのはどれか。

- 頸部を後屈して行う。
- 甲状腺は甲状軟骨と舌骨との間に触知する。
- 唾液を嚥下すると甲状腺は頭側へ移動する。
- 甲状腺の血管性雑音は頸動脈分岐部分で聴取する。
- 甲状腺を触知すれば甲状腺腫大があると診断する。

- 9 68歳の男性。右小指が伸ばせなくなったことを主訴に来院した。糖尿病にて内服治療中で、HbA1cは6.3%（基準4.6～6.2）である。10年前から右手掌の小指側に硬結を触れ、硬結は徐々に硬くなってきた。洗顔の際に右小指で眼や鼻を突くようになってきたため受診した。硬結は22×8mmの大きさと索状に縦走する。右小指中手指節関節（MP関節）が屈曲しており、自動、他動ともに屈曲40°までしか伸展できない。他の指に可動域制限を認めない。感覚障害はなく握力も低下していない。

最も考えられるのはどれか。

- 屈筋腱断裂
- 伸筋腱断裂
- 尺骨神経麻痺
- 後骨間神経麻痺
- Dupuytren拘縮

- 10 2か月の乳児。新生児聴覚スクリーニングで両耳とも要精査となったため母親に連れられて来院した。身長、体重は正常範囲であり、両側の鼓膜に異常を認めない。サイトメガロウイルス抗体検査は陰性であった。

まず行うべき検査はどれか。2つ選べ。

- 側頭骨CT
- 染色体検査
- 純音聴力検査
- 重心動揺検査
- 聴性脳幹反応（ABR）

## 宮崎県感染症発生動向 ～12月～

平成28年11月28日～平成29年 1月 1日(第48週～第52週)

### ■全数報告の感染症

- 1類：報告なし。
- 2類：○結核21例：保健所別報告数を【図1】に示した。患者が11例、無症状病原体保有者が10例であった【表1】。患者は肺結核が6例、肺結核及びその他の結核(粟粒結核、結核性胸膜炎)が4例、その他の結核(結核性リンパ節炎)が1例であった。性別は男性16例・女性5例で、年齢別報告数を【表2】に示した。
- 3類：○腸管出血性大腸菌感染症2例：高鍋及び延岡保健所管内から各1例ずつ報告があった。  
 ・50歳代で、主な症状として腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐がみられた。原因菌のO血清型はO26(VT1産生)であった。  
 ・10歳代で、無症状病原体保有者であった。原因菌のO血清型はO91(VT1産生)であった。
- 4類：○重症熱性血小板減少症候群(SFTS)1例：延岡保健所管内から報告があった。80歳代で、主な症状として発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹がみられ、ダニの刺し口はなく、海外渡航歴はなかった。  
 ○つつが虫病25例：保健所別報告数を【図2】に示した。年齢別では80歳代が最も多く、全体の3割を占めた【表3】。主な症状として、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、頭痛、筋肉痛、全身倦怠感等がみられた。
- 5類：○アメーバ赤痢1例：宮崎市保健所管内から報告があった。50歳代女性で、病型は腸管アメーバ症であった。主な症状として下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見がみられた。  
 ○カルバペネム耐性腸内細菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。80歳代で、主な症状として尿路感染症、敗血症がみられた。原因菌は*Enterobacter cloacae*であった。  
 ○劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状としてショック、腎不全、DIC、軟部組織炎がみられた。血清群はA群であった。  
 ○侵襲性肺炎球菌感染症1例：宮崎市保健所管内から報告があった。30歳代で、主な症状は発熱がみられた。ワクチン接種歴はなかった。  
 ○播種性クリプトコックス症2例：宮崎市保健所管内から報告があった。  
 ・70歳代で、主な症状として発熱、意識障害、呼吸器症状、胸部異常陰影、真菌血症がみられた。  
 ・60歳代で、主な症状として頭痛、意識障害、項部硬直がみられた。  
 ○破傷風1例：宮崎市保健所管内から報告があった。60歳代で、主な症状として筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、咽頭部の易刺激性がみられた。破傷風のワクチン接種歴は不明であった。

### ■5類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は7,059人(定点あたり205.5)

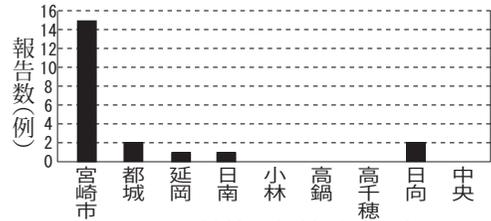


図1 結核 保健所別報告

表1 結核 病型別報告

肺結核	6
肺結核及びその他の結核(粟粒結核、結核性胸膜炎)	4
その他の結核(結核性リンパ節炎)	1
無症状病原体保有者	10

表2 結核 年齢別報告

10歳代	20歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	2	4	5	4	2

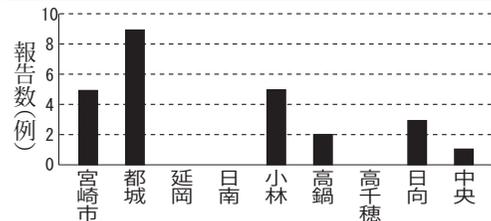


図2 つつが虫病 保健所別報告

表3 つつが虫病 年齢別報告

50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
4	6	7	8

### 前月との比較

	2016年12月		2016年11月		例年との比較
	報告数(人)	定点当たり(人)	報告数(人)	定点当たり(人)	
インフルエンザ	804	13.6	39	0.7	
RSウイルス感染症	121	3.4	99	2.8	
咽頭結膜熱	131	3.6	92	2.6	
※溶レン菌咽頭炎	358	9.9	203	5.6	
感染性胃腸炎	4,539	126.1	1,651	45.9	★
水痘	148	4.1	51	1.4	
手足口病	405	11.3	494	13.7	
伝染性紅斑	161	4.5	89	2.5	★
突発性発しん	151	4.2	120	3.3	
百日咳	1	0.0	1	0.0	
ヘルパンギーナ	27	0.8	42	1.2	
流行性耳下腺炎	100	2.8	105	2.9	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	90	18.0	42	8.4	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	1	0.1	0	0.0	
マイコプラズマ肺炎	22	3.1	34	4.9	★
クラミジア肺炎	0	0.0	0	0.0	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.0	0	0.0	

★ 例年同時期(過去3年の平均)より報告数が多い

※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

で、前月比215%と増加した。また、例年の131%と増加した。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は手足口病とマイコプラズマ肺炎であった。また、例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患は感染性胃腸炎、伝染性紅斑、マイコプラズマ肺炎であった。

インフルエンザの報告数は804人(13.6)で前月の約21倍、例年の約1.3倍であった。都城(33.8)、日南(20.4)、小林(13.4)保健所からの報告が多く、年齢別では10～14歳が全体の約2割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は4,539人(126.1)で前月の約2.7倍、例年の約1.6倍であった。中央(197.0)、小林(180.3)、宮崎市(170.5)保健所からの報告が多く、年齢別では1～5歳が全体の約6割を占めた。

伝染性紅斑の報告数は161人(4.5)で前月の約1.8倍、例年の約3.0倍であった。日向(12.3)、小林(6.0)、宮崎市(5.6)保健所からの報告が多く、年齢別では5～6歳が全体の約4割を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は22人(3.1)で前月の約0.6倍、例年の約8.3倍であった。宮崎市(8.0)、日向(7.0)、延岡(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では5～9歳が全体の半数を占めた。

## ■月報告対象疾患の発生動向

### <2016年12月>

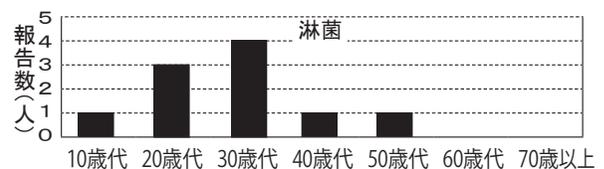
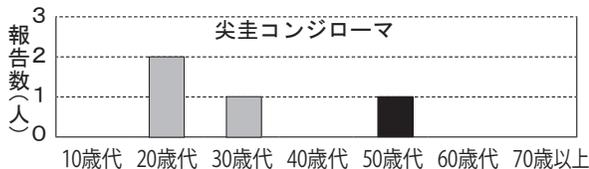
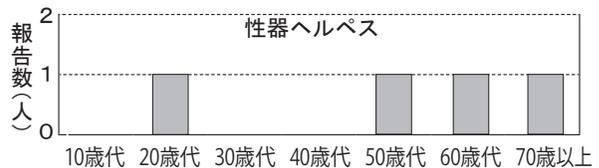
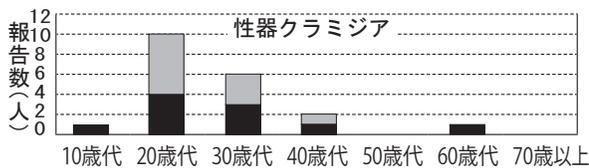
#### □性感染症

##### 【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は38人(2.9)で、前月比131%と増加した。また、昨年12月(2.2)の約1.3倍であった。

#### 《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月(1.3)の約1.2倍、昨年12月(1.2)の約1.3倍であった。20歳代が全体の半数を占めた(男性10人・女性10人)。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人(0.31)で、前月(0.38)の0.8倍、昨年12月(0.54)の約0.6倍であった(女性4人)。
- 尖圭コンジローマ：報告数4人(0.31)で、前月(0.15)の2.0倍、昨年12月(0.15)の2.0倍であった。(男性1人、女性3人)。
- 淋菌感染症：報告数10人(0.77)で、前月(0.38)の2.0倍、昨年12月(0.31)の2.5倍であった(男性10人)。



■男 ■女

#### □薬剤耐性菌

##### 【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は8人(1.1)で前月比38%と減少した。また、昨年12月(2.7)の約0.4倍であった。

#### 《疾患別》

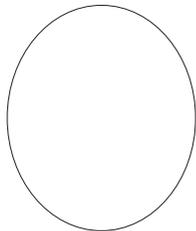
- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数8人(1.1)で、前月の0.4倍、昨年12月(2.4)の約0.5倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

(宮崎県衛生環境研究所)

## ■病原体検出情報(微生物部)

	検出病原体	件
ウイルス	単純ヘルペスウイルス1型	1
	エコーウイルス6型	2
	エコーウイルス9型	3
	コクサッキーウイルスA6型	1
	コクサッキーウイルスA16型	5
	ノロウイルスGⅡ	3
	ヒトヘルペスウイルス6	2
	パルボウイルスB19	3
	サイトメガロウイルス	1
細菌	アデノウイルス2型	1
	インフルエンザウイルスAH3	2
	<i>Salmonella</i> Corvallis (08:z4, z23:-)	2
	<i>Salmonella</i> Oranienburg (07:m, t:-)	1

## メディアの目



## ドラマで伝える地域の魅力

NHK宮崎放送局 放送部長

こ あき おさむ  
濃 明 修

NHK宮崎放送局では去年、宮崎発地域ドラマ「宮崎のふたり」を制作しました。物語は、定年退職した主人公の男が、40年前に新婚旅行で来た宮崎を一人で訪れるところから始まります。宮崎生まれのタクシー運転手とその彼女との出会いなど旅でのさまざまな出来事を通して、夫婦の絆を見つめ直すというものです。監督をはじめ演出、技術、広報のスタッフにNHK宮崎放送局の職員を総動員して、10月に無事、放送をすることが出来ました。幸いなことに番組は好評で、10月の月間ギャラクシー賞も受賞しました。

ドラマの制作過程は企画、シナリオ作りのための取材(シナハン)、脚本作成、キャスティング(配役)、ロケ地の選定(ロケハン)、大道具や小道具、衣装、機材の準備等々、撮影が始まる前に膨大な作業があります。撮影中も天候の変化などで予定はどんどん変わります。撮影後は、映像の編集、音楽や字幕入れなどの作業を経て、番組の完成に至ります。こうしたさまざまな過程を支えてくれたのが、県内の多くの方々や団体です。撮影場所や資料の提供、エキストラ集め、方言指導や医療監修でもお世話になりました。脚本家の安達奈緒子さんは、宮崎の美しい風景、おいしい食べ物、そして、人々のや

さしさに触れて、「やばい。骨抜きにされそう」と語っていました。

スタッフもドラマの制作を通じて、あらためて宮崎の風土と人々の魅力に気づかされました。

しかし、ドラマを作るにあたっては、ただ単に観光スポットを巡り、あたたかい人々に触れるなかで、夫婦の絆を取り戻すという「ありがち」な展開にしてはいけないという思いがありました。いくら観光名所をちりばめて、宮崎を褒めたたえても、ドラマそのものが面白くなければ、宮崎に関心を持ってもらうことは出来ません。逆に、ドラマが人々を感動させるものであれば、その舞台となった場所が、“聖地”として新しい名所になることも期待できます。

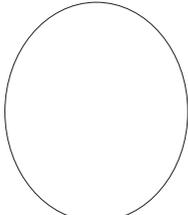
まだ、ご覧になっていないかたのために詳しいストーリーは割愛しますが、ドラマ自体は宮崎のいいところだけでなく、辛口の部分もあります。厳しい現実も含めて、宮崎の今、戦後の高度成長期を支えてきた世代の人生、宮崎で生きる若者達の姿を描こうとしました。

ドラマが成功したかどうかはわかりませんがこれからも地域の現実、課題に向き合いながら、宮崎の魅力を発信し、よりよい未来を考える番組をだしていきたいと思っています。

## 宮崎大学医学部だより

### 病理学講座

#### —腫瘍・再生病態学分野—



かたおか ひろあき  
片岡 寛章 教授

腫瘍・再生病態学分野(旧病理学第二講座)は、教室の礎を築き上げられた故 河野正初代教授(名誉教授)から、平成13年に片岡寛章教授が引き継がれました。現在のスタッフは教授

以下、助教3名、客員研究員1名、病院病理部所属の助教と医員各1名、大学院生4名(うち1名は検査部助教)、技術職員1名、技能補佐員2名です。また非常勤講師2名がそれぞれ病理診断学と研究に関して指導に携わっております。

臨床面では従来通り、構造・機能病態学分野(旧病理学第一講座)と協力して、病理診断と病理解剖とを隔週交代で担当しています。臨床各科との連携として、骨髄、婦人科、泌尿器科および神経放射線の各カンファレンスに参加しています。病理診断に関しては、規約改定や細分化する診断、新規治療法に則した詳細を求められるケースなど、少人数で全科に対応する上で困難を感じる局面が多くなっていますが、患者さんに何が本当に重要なのかを考察し、病態を正しく反映した診断報告を行いたいと心がけています。当教室出身者が地域の基幹病院(県立延岡、県立宮崎、藤元総合病院)や検査機関で病理医としてご活躍されており、更に、福岡大学医学部では鍋島一樹教授、島根大学医学部では丸山理留敬教授、山口大学医学部では伊藤浩史教授が、それぞれ本教室出身の病理学教授として大活躍されています。

学部教育においては、3年生への系統講義、5年生のポリクリ、6年生のクリニカルクラークシップを構造・機能病態学分野と分担しています。加えて、4年生への臨床腫瘍学の講義や大学院における講義、初期研修医の受け入れ、

さらには本学看護学科や県内の医療系専門学校の教育にも協力しています。また3年生の研究室配属においては、病理の面白さはもちろんのこと、研究の面白さ、科学的な考え方の重要性を伝えることを強く意識しています。また平成25年からスタートした医学研究者育成コースでは、当教室にも4名の学生が所属しており、病理学会や医学研究者育成コース研究発表会などで研究成果を積極的に発表してきました。

研究面では開講以来、癌の浸潤・転移分子機構の解明に取り組み、特に癌微小環境におけるプロテアーゼによる生理活性物質プロセッシングとその制御に関する研究を行ってきました。近年は細胞膜結合型プロテアーゼインヒビターによる細胞増殖因子活性化酵素群の制御機構と、その破綻で生じる様々な上皮組織の病態(炎症、発癌、癌浸潤・転移)を集中的に解析しています。小さなラボながら、宮崎から世界へ研究成果を発信することを目標に、これらの蛋白に関するさまざまな遺伝子改変マウスも世界に先駆けて作製してきました。限られた領域ではありますが、世界をリードする研究を行ってきたと自負しています。教室員が一致団結してこつこつと営んできた研究成果は、平成29年度の日本病理学会総会宿題報告に選ばれる栄誉に浴しました。片岡教授が教室を代表して講演する事となっており、教室員一丸となって準備を行っているところです。また、膠芽腫、膵癌、肝癌など難治性癌における新規の悪性形質因子や予後規定因子の探索も進め、一定の業績をあげてきました。

病理学は、基礎講座として病態の解明を使命とする、医学の屋台骨であると共に、臨床講座として臨床各科との密な連携を要求される、まさに臨床と基礎の橋渡し領域です。病理診断、教育、研究のいずれかのみにも偏る事なく、病理学を志す若者を一人でも増やせるよう魅力的な教室でありたいと思っています。今後、より一層地域の医療に貢献できるよう、スタッフ一同、精進して参りたいと思います。

(助教 川口 真紀子)

## 各郡市医師会だより

### 都城市北諸県郡医師会

当医師会が運営している都城健康サービスセンター(以下「当センター」)は、会員医療機関からの依頼による検体検査を行う検査事業と企業や地域住民を対象にした健康診断等の検診事業を行っています。そんな中、今年度より産業医部会からの要請もあって、一昨年12月より従業員50人以上の事業場に義務付けられたストレスチェック事業を新たな事業として取り組んでいます。今回のストレスチェック制度は、厚生労働省より提供されています無料の支援ソフトを使って、事業場で実施事務従事者を決め、その者に守秘義務を課して、産業医の協力を得て実施すれば事業場でできるようになっていますが、受検する従業員側からすると回答結果の取り扱いについての不安感が残ります。また産業医と事業場の関係も国が考えている程密着したものではないのが実態で、事業場単独で円滑なストレスチェックを実施することへのハードルはかなり高いと思われる。このような点において医師会立共同利用施設である当センターが関わることの意義があるのではないかと思います。

当初は、従業員50人以上の事業場に義務化されたとはいえ産業医、事業場共に制度への認識度はけっして高いとはいえない状況でしたので、先ず制度の説明から始めることになりました。その対応として産業医対象の説明会の開催や当センター職員が産業医・事業場を直接訪問して説明を行いました。その効果もあって徐々に認識は高まりをみせ昨年12月現在、調査依頼事業場120か所、受検者数において18,000名のストレスチェック依頼実績を得られるという結果に結びついています。今後共当センターの事業をとおして、医師会立共同利用施設として少しでも会員の役に立てればと考えているところです。

(宇宿 修隆)

### 宮崎市郡医師会

会員の学術の研鑽と診療知識の向上等をめざして、当会はしのめ医学会を年3回、医師会例会に合わせて開催しております。例会と合わせての開催でもあり、毎回多数の会員の参加を得ています。講師の選定は当会の学術委員会が担当しており、宮崎大学の新任の教授を中心にお願いしています。会員が宮崎大学で行われている最新の診療・研究をうかがい知る貴重な機会となっておりますので、宮崎大学と医師会の相互理解にも少なからず寄与できているのではないかと思います。

(菊池 郁夫)

### 延岡市医師会

平成29年度から延岡市内の全小学校で、フッ化物洗口が開始される予定となりました。平成27年度がモデル校2校で、平成28年度がモデル校13校で導入され実績を積んできました。宮崎市は平成22年度から指定校で開始されたと聞き、延岡市は5年遅れてのスタートとなります。延岡市教育委員会保健体育課が中心となり、学校歯科医部会、学校医部会、薬剤師部会も関与しながら、延岡市学校保健会(理事・評議員会)で度々議題にあがり、学校関係者とかかなり熱い討議が繰り返されてきました。これから順調に軌道に乗ることを願っています。

(金井 一男)

## 日向市東臼杵郡医師会

ここ数年看護学生の休学・退学者が増加傾向にあるため、学期の終わりに全職員で成績・出席状況及び生活面について検討し、問題のある学生については早めの面談を行い休学等にならないよう指導を行ってきました。

しかしながら先生方が学生の努力を認めて「やる気」を奮い立たせる指導を行っているにもかかわらず、本年度の卒業予定者は35名中26名(74%)となっています。学生指導については、いろいろと工夫を行っているところですが、改善の兆しが見えてきません。学力はもちろんですが、目的意識を明確に持ち、対人関係能力を兼ね備えた学生の確保が課題となってきました。(渡邊 康久)

## 児 湯 医 師 会

嘗て、宮崎方面から10号線を北上しますと、川南辺りから香しい匂いが漂ってきて、あわてて窓を閉めたものでした。しかし、6年半前にピタッと消えました。そうです、口蹄疫が発生し甚大な被害をもたらしました。でも1,2年前からだったのでしょうか、思いがけなくあの臭いが漂ってきた時、妙に嬉しい気持ちになったのを覚えています。「頑張らない、でも諦めない」のスローガンの下、児湯郡は一丸となりました。でも後継者のいない業者の方は廃業された方も多いと聞いています。まだ復興半ばです。児湯医師会総意として、地域の復興には協力を惜しみません。(永友 淳司)

## 西都市西児湯医師会

昨年はイギリスが国民投票でEU離脱、アメリカ合衆国大統領選で自国至上主義の人が当選等と、まさにポピュリズムのお手本のような年でした。そのような状態で今年を迎えたのです

が、当医師会に関係し、この投稿が載る頃には西都市の市長選は結果が出ていると思われませんが、将来に不安を残さないような良い市政を行ってくれる方が新たに当選していることを願っています。

昨年も医科歯科連携の骨粗鬆症研究会を行いました。行政との連携など、まだやるべきことはあります。少しでも良くなればと思います。

(上山 裕史)

## 南 那 珂 医 師 会

日南市の平成27年度の一人当たりの医療費は約44万円で美郷町に次いで県内第2位と高額です。また年齢構成別一人当たりの医療費をみると20~39歳が県内1位、特定健診対象年齢層の40~59歳が第2位を占め、若い世代が病んでいることが明らかになりました。そこで市は『市民の健康増進、医療費の適正化』に向けた保健事業として35歳到達者も特定健診対象(若年者特定健診)とし、平成26年37.3%であった特定健診受診率を40%以上を目標に“医療機関からの特定健診情報提供事業”を展開、これに医師会が協力し、平成27年度は40.3%を達成できました。(中村 彰伸)

## 西 諸 医 師 会

県の在宅医療・介護推進協議会の設置・運営事業として、昨年1月12日に西諸地域在宅医療介護連携推進協議会が発足し協議を進めていますが、同事業の一環として12月10日に「在宅医療・介護連携における取組とこれから」と題し講演会が開催されました。山形県鶴岡地区医師会の前会長・三原一郎先生ほかを講師にお迎えし、多職種協働を支える重要なツールである地域電子カルテの運用状況等についてご講演いただきました。(矢野 裕士)

## 第 7 回 宮崎の医療を考える会 (県医広報委員会と若手記者との勉強会) ～宮崎県の救急医療体制の現状と課題～

と き 平成28年11月30日(水)

場 所 県医師会館

沖田委員長の司会により開会，荒木常任理事の挨拶の後，今回のテーマ「宮崎県の救急医療体制の現状と課題」について広報委員より解説があり，その後，意見交換を行った。

### 解 説

#### 1. 宮崎県内の救急医療体制の現状について

広報委員長 沖田 和久(新城眼科医院)

県内の一次・二次・三次救急の現状，また県内の救急搬送における現場到着・病院収容所要時間，受入状況等の詳細をデータに基づいて説明を行った。

#### 2. 宮崎大学医学部附属病院救命救急センターについて

学生広報委員 押川 隆

(宮崎大学医学部医学科 5年)

宮崎大学医学部附属病院救命救急センターの運用体制の現状，ドクターヘリ，ドクターカーの運用実績の報告を行った。また救急体制を効率的に機能させるための現状の課題について，救命救急センター長 落合教授の考えが紹介された。

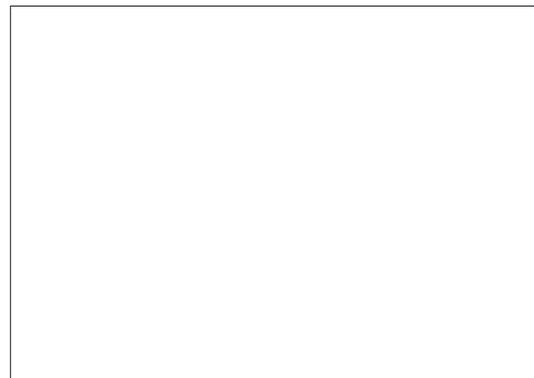
#### 3. 県立宮崎病院救命救急センターについて

広報委員 中村 豪(県立宮崎病院)

県立宮崎病院の救命救急センターの現在の運用体制の説明，および現状の厳しい勤務体制では全ての救急患者を受け入れることが困難な状況とその改善策等について説明を行った。

#### 4. 宮崎市夜間急病センター小児科について

広報委員 山崎 俊輔(たんぽぽ小児科)



宮崎市夜間急病センター小児科の体制について説明し，当センターが小児科医の高齢化により維持することが難しくなっている現状を報告した。また，#8000(小児救急電話相談事業)の詳細とその成果についての報告を行った。

#### 5. 宮崎県の周産期救急について

広報委員 上山 貴子

(うえやま貴子クリニック)

周産期救急について，一次施設での妊婦健診によりハイリスクと評価した場合は二次施設に送るというシステムを確立したことによっての一定の成果，また，本県は産婦人科医師の高齢化が進んでいる自治体の一つであるため，産科医を増やし産科医療を充実させていく対策が必要であることを説明した。

#### 6. 宮崎大学医学部学生アンケート

学生広報委員 馬場 萌子

(宮崎大学医学部医学科 4年)

救急医療に対するイメージ，初期研修・後

期研修の希望地域、将来の希望診療科について宮崎大学医学部4～6年生に対してアンケートを取った結果、病院実習を終えた後は、救急医療に対して実習前より厳しいイメージを持ってしまうこと等が報告された。

### 意見交換

記者からの医師の過重労働についての質問に対し、県内の医師の高齢化は他県より進んでおり、救急指定病院での過重労働の常態化を解消するためには、受診する側への意識改革を進めていくことも重要であり、そのためには、報道機関の方々には地域医療の厳しい現状を正確に県民に伝えていただきたいことを要望した。

出席者

(報道機関)

時事通信社、夕刊デイリー新聞社、朝日新聞社、西日本新聞社、宮崎日日新聞社、毎日新聞社、読売新聞、MRT宮崎放送局

(県医師会広報委員)

沖田委員長、西田副委員長、岡本副委員長、中村委員、野村委員、中村委員長、山崎委員、稲倉委員、上山委員、押川委員、佐井委員、馬場委員、柴野委員

(県医) 富田副会長、荒木常任理事、

佐々木理事、牧野課長、立山主事

※標記勉強会の内容は「宮大医学部学生のページP76」でも学生広報委員の佐井委員が詳しく報告していますので、併せてご覧ください。

## － 各種委員会 －

### 医学賞選考委員会

と き 平成28年12月12日(月)

ところ 県医師会館

小牧常任理事より開会、濱田副会長の挨拶後、中山委員長の進行により今年度の医学賞について協議した。

昨年発行された宮崎県医師会医学会誌第39巻第1号および第2号を対象とし、各専門分科医会に事前に論文の推薦を依頼したところ、6つの論文について推薦があった。この6つの論文を対象に討議された結果、「宮崎県産婦人科医会による思春期相談事業7年間の分析」(山口昌俊先生他 第39巻第2号)の1論文について、多くの事例を丁寧に分析した論文である点が評

価され、医学賞受賞候補論文として河野県医師会長に推薦することとなった。

出席者—中山委員長、松岡副委員長、

河野・濱田・小牧・金丸・嶋本委員

(県医) 牧野課長・川端主事

## 九州各県医師会学校保健担当理事者会

と き 平成28年11月26日(土)

ところ 福岡県医師会館

担当の佐賀県の志田専務理事の司会により開会后、池田会長より挨拶があった。続いて、熊本県の高橋副会長から、8月6～7日に熊本県で開催された「第60回九州ブロック学校保健・学校医大会並びに平成28年度九州学校検診協議会(年次大会)」についてお礼が述べられた。その後、慣例により池田会長が座長に選出され、協議が行われた。

### 協 議

#### 1. 第61回九州ブロック学校保健・学校医大会並びに平成29年度九州学校検診協議会(年次大会)について(佐賀県)

下記の日程で行う旨の説明があり、原案と  
おり承認された。

日 時：平成29年 8 月 5 日(土)15：00～20：30

8 月 6 日(日)9：00～15：00

場 所：ホテルニューオータニ佐賀

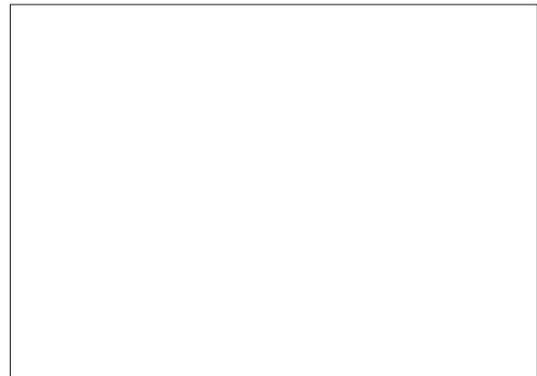
メインテーマ：「健やかな成長を願って～守  
ろう、こころ・からだ・いの  
ち～」

#### 2. 九州各県の脊柱・胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態の検査に関する結果について(福岡県)

##### 提案理由

平成26年4月の学校保健安全法施行規則の一部改正により、本年度4月から「脊柱・胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態」の検査、いわゆる運動器検診が実施されている。

現在、文科省において「平成28年度健康診



断実施状況調査」の取りまとめが行われており、各県教育委員会等においては既に各県の現状について把握されていると推察する。

そこで、どのくらいの児童生徒が要精密となったのか、また、その要精密者が実際に専門医療機関を受診し異常が発見されたのかを把握することで、この運動器検診が適切な項目で実施されているのかなどの課題を抽出・検討し、必要であれば見直しを行うことが重要だと考える。本会では、調査結果を把握し、課題を抽出することになっている。異常が見つかった児童生徒に対して、その後どのようにフォローしていくかの検討も重要であり、更なる検診の充実を図るため、各県の現状を伺いたい。

##### 協議内容

保護者が保健調査票にチェックした人数の割合は高いところで17%、学校医が専門医等での受診を勧めた人数の割合は3%という結果が多かった。運動器検診モデル事業等から考えると、専門医への受診勧奨は5～11%程

度と予想していたが、そこまでには至らなかった。今後とも検討が必要だと考える。

### 3. 運動器検診に係るいじめへの対応について (沖縄県)

#### 提案理由

今年度から新たに導入された運動器検診において、異常を指摘され、専門医を受診したところ当該異常所見の原因として「いじめ」が疑われる例を経験した。

「いじめ」への対応は、従来から行われているものと特に変わるところはないと考えるが、この様な例を経験したことで、学校健診における運動器検診が「いじめ」発見の一助として機能する可能性が示唆された。以下について各県に伺いたい。

1. 運動器検診をきっかけとして、「いじめ」に関連する様な異常が発見された事例を経験したことがあるか。
2. 今後、運動器検診を行う場合には、「いじめ」に繋がる可能性のある所見にも目配りが必要となってくると考えるが、どのような所見に気を付け、検診を行っていけばよいか。
3. 今後、運動器検診における異常所見と、「いじめ」との関係に関して引き続き情報収集を行い、現場に反映して行くことも必要だと考えるが、その方法について提案・経験を伺いたい。

#### 協議内容

運動器検診の保健調査票に、上肢の片方の拳上が不完全、肩関節に痛みが入るといった部分にチェックが入っており、学校医が専門医受診を勧奨した結果、肩の部分の色々な物に強く押し付けるような、いじめが原因であったことが説明された。

各県では、運動器検診でいじめが発覚した事例は把握していなかった。学校医等に対し

こうした事例があることを情報共有する必要がある。

### 4. 平成28年度から始まった学校健診について ①運動器検診の実施状況と異常者数等について(長崎県)

#### 提案理由

運動器検診が今年度から行われることになったが、本県でも十分に検討できていない。

運動器検診モデル事業での二次検診での頻度は、5～11%程度とされていたが、今回実施した運動器検診では殆ど二次検診にならなかった。今のところ頻度は3%を下回っており、非常に少ないので、本当に今回の健診の方法で良かったのか検討の必要があると考える。

各県の運動器検診の実施状況、異常者の人数及びその頻度、また調査票での異常の頻度について、状況をお伺いしたい。

#### 協議内容

提案事項2のとおり。

### ②成長曲線における異常者の頻度と成長曲線の見方について(長崎県)

#### 提案理由

成長曲線はあまり馴染みがなく、会員もあまり判定基準について正確な情報を得ていない可能性があることから、成長曲線における異常者と判定された頻度と成長曲線の見方について問題がなかったか、各県の状況を伺いたい。

#### 協議内容

学校医は成長曲線に関する理解が低い。医師会が学校医を対象に研修等を行っていかねばならない。

発育の評価としてパーセントイル曲線を用いた場合、低身長該当者数が増えてしまい混乱を招く恐れがあるため、低身長疑いの場

合は小児科への受診勧奨を行うよう学校医へ周知している県があった。

### ③色覚検査の実施状況と保護者への検査の案内等について(長崎県)

#### 提案理由

学校における色覚検査は、平成13年度の文科省の学校保健法施行規則一部改正により、健康診断の必須項目から削除され、平成15年度から施行されているが、本県では検査を実施したほうが良いとの意見が多数みられる。色覚検査についての各県の状況を伺いたい。

#### 協議内容

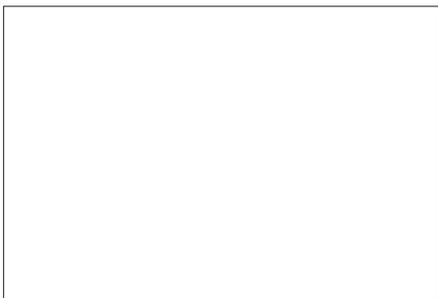
保護者に対し、男子の5%の割合で色覚に

異常がみられることがあることや、職業、進路選択の際、就けない職業があることを文書で周知している例や、テレビ等メディアを使った周知活動について報告があった。

色覚検査の重要性を保護者へ周知するよう教育委員会へ働きかけているが、いじめ等の問題があり積極的な検査を実施していない学校もあるため、学校側で相談を受けたら、直接、眼科での受診勧奨を行っているケースも報告された。

出席者—高村常任理事、久永課長、  
野尻課長補佐

## 宮崎県医師会無料託児サービスのお知らせ



宮崎県医師会では、県医師会館で開催される講演会・研修会に参加される医師(医師会員でなくても可)のお子様を対象に本会館1階に臨時の無料託児ルームを設置いたします。県医師会が契約した保育士が対応いたします。

ご利用の場合は、事前の予約が必要となりますので、ご希望の方は開催日の2週間前までに県医師会までご連絡ください。



お問合せ先

宮崎県医師会

TEL 0985-22-5118

FAX 0985-27-6550

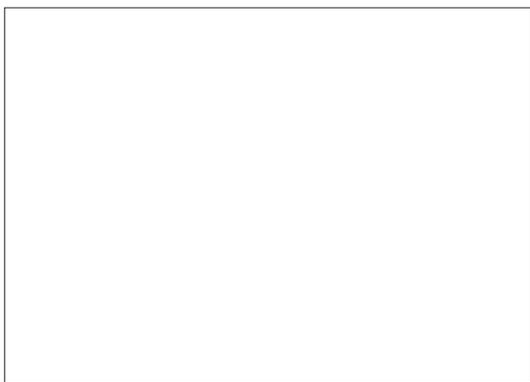
担当 畠中・久永

## 平成28年度九州学校検診協議会第2回専門委員会

と き 平成28年11月26日(土)

ところ 福岡県医師会館

### 1. 心臓部門 座長：吉永 正夫 (鹿児島県医師会学校保健委員会委員)

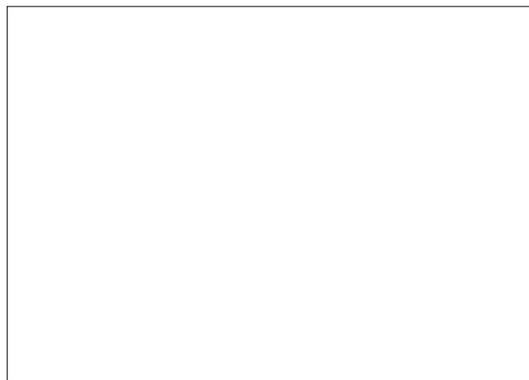


出率などについて報告があった。九州各県の要精密検査抽出率の差が1～6%と大きいので2%ぐらいに縮まると良いという意見があった。

#### 4) 判読委員構成比調査について 調査票について協議を行った。

出席者－高木学校医部会理事，久永課長

### 2. 腎臓部門 座長：服部 新三郎 (熊本県医師会学校検診委員会委員)



#### 1) 心臓検診時の統一病名(平成27年度)について

前回委員会で報告された統計表の訂正が報告された。

#### 2) 若年者の心肺蘇生事例調査中間報告について

本委員会で実施している九州各県の若年者の心肺蘇生事例調査について中間報告があった。年齢別発生頻度としては0歳児が一番多く、またSIDS(乳幼児突然死症候群)が起りやすい生後2～5か月で多く発生している。基礎疾患に心血管疾患が記載されていたものは平成24～27年で421例中42例(10%)であった。

#### 3) 三次検診(精密検査)及びその後の管理の受け皿に関して

各県から、二次検診や三次検診を行う医療機関(診療科)や判定する医師の状況、抽

#### 1) 鹿児島県医師会学校検尿判定会について (平成27～28年度分)(鹿児島県)

三次検診の受診率向上のため、鹿児島県医師会学校検尿判定会を昨年度から実施している。平成27年度からの経過を含め現状報告があった。

鹿児島県では都市部の4地区は判定会を郡市医師会で行っているが、13地区は判定会を持っていなかったため、平成27年度か

ら県医師会で判定を行うことになった。平成27年度は7地区、平成28年度は9地区から判定依頼があった。2年目の判定数は1年目の倍近く増えてきており、今後全域に広げたい。

## 2) 新規の病理診断、腎機能低下、CAKUT(先天性腎尿路奇形)の人数と発見契機の集計について(大分県)

各県での新規の病理診断、腎機能低下、CAKUTの人数と発見契機が検診(学校検尿、三歳児健診、乳児健診)であった割合を集計してはどうか。また、九州学校検診マニュアルの意見を収集してはどうか。初療医と専門医との連携や学校検診システムを検証する一助になるのではないかと考える。

一次及び二次検尿は90%以上の受検率であるが、三次検尿(精密検査)では受検率が60%近くに減ってしまう。まずは、三次検尿受検率を上げることが大事である。

精密検査結果を把握し、縦断的なフォローアップにつなげることは重要であるが、現在のマニュアルで行う児童・生徒の学校検尿は、暫定診断に関する横断的なものであり、縦断的な集計はできないため、マニュアルの変更も含め今後継続審議していくことになった。

マニュアルの意見収集の方法等については、桑門委員(大分県)と仲里委員(熊本県)とで検討いただくことになった。

## 3) 学校検尿に関する各郡市医師会へのアンケートについて(追加報告)(福岡県)

学校検尿に関する課題(三次検診)を解決するために、各郡市医師会に行ったアンケート結果について報告があった。

三次検尿受検率向上のために積極的な取組を行っているところと、取組をしていな

いところで受検率を比較してみた結果、取組と受診率にはあまり関係がなく、受検率の向上は難しい問題であることが分かった。今後も三次検尿受検率向上のための働きかけは常に必要である。

## 4) 平成27年度腎臓検診結果の集計結果について(九学検協事務局)

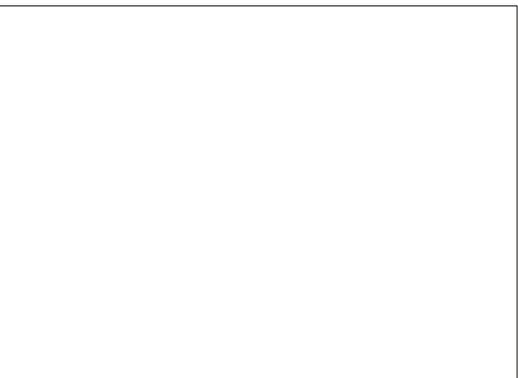
平成27年度腎臓検診結果集計の修正について追加報告があった。

熊本県と福岡県の集計結果の修正を反映させた九州各県の集計結果を、福岡県メディカルセンターのホームページで公開することになった。

掲載内容については、まだ集計がうまくいっていない特別支援学校と高等学校を省き、小・中学校のみとすることになった。

出席者一宮田学校医部会理事、野尻課長補佐

## 3. 小児生活習慣病部門 座長：田崎 考 (九州学校検診協議会専門委員)



## 1) 九州地区尿糖陽性者群集計結果のまとめについて(佐賀県)

来年度使用の集計表について、二点変更することが決定した。一点目は、最終診断名で「糖尿病Ⅰ型、糖尿病Ⅱ型」と表記していたものをそれぞれ「1型糖尿病、2型糖

尿病」とすること。二点目は、新規発生や既管理者も含め、該当年の陽性者全員を抽出すること。問題点として挙げられていた、腎臓検診結果の集計に尿糖が含まれていないことについては、全体協議にて腎臓部門での集計に加えてもらうよう要請した。

## 2) 小児生活習慣病予防健診の動向(活動状況)について(佐賀県)

学校健診マニュアルの改訂にともない、実施もしくは予定、検討中の市町村が増えてきている。宮崎県では、ハイリスク群への事後指導だけでなく、全生徒を対象とした食育に関する出前講座を参観日などに実施し、保護者にも興味、理解を得てもらえるように取り組んでいる。福岡県北九州市では、全学校から成長曲線のデータ提供を受けており、マニュアル改訂に伴い判定方法を変更し実施した。今後も、各県での取り組みを委員会の場で情報共有していく。

## 3) 別府市での小児生活習慣病予防健診(報告)について(大分県)

別府市が2011年から2013年の3年間に小学4年生と中学2年生の希望者に実施した小児生活習慣病予防健診結果について、下記のとおり報告があった。

<結果>

小4 (1,384名)

肥満度 50%超 : 男子1.3% 女子0.14%

肥満度-20%以下: 男子4.0% 女子5.8%

中2 (1,002名)

肥満度 50%超 : 男子1.76% 女子0.56%

肥満度-20%以下: 男子4.7% 女子4.0%

・男女いずれもかなりの肥満および痩せがみられる。

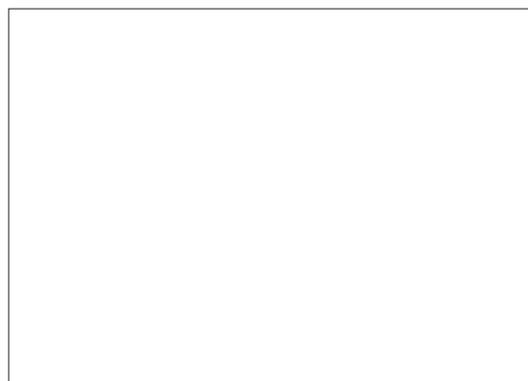
・小4, 中2ともに肥満度の最大と最小は男子である。

- ・LDLコレステロールは成長期には比較的高値となるが、発育とともに成人の値に近づく。
- ・身長と相関があるHba1C, 尿酸は年齢での差はほぼない。
- ・生活習慣や家族歴との関連性について、引き続き解析を行う。

出席者—澤田学校医部会学校検診委員,  
畠中主事

## 4. 運動器検診協議 座長: 稲光 毅

(福岡県医師会理事)



## 1) 平成28年度から始まった運動器検診の実施状況と異常者数等について(長崎県)

二次検診の頻度が3%を下回っており、運動器検診モデル事業での二次検診頻度(5~11%程度)よりも少ないという長崎県からの意見を受けて、各県の実施状況が報告された。同じく当初の予想よりも二次検診頻度が低い県が多く、今年度の調査結果を受け今後どのように対応していくかを各県で協議することが確認された。

## 2) 運動器検診の課題点と今後の対応について(鹿児島県)

全体としては大きな問題なく進んでいるが、教育委員会との連携や、地域間の温度

差，整形外科医や学校医の先生方の協力など，まだ不十分な部分もあることが各県からの意見としてあげられた。運動器検診が始まって間もないこともあり，各県共通の課題が多くあることが確認された。

今回の協議を受けて，九州各県が課題を共有し理解を深めながら協働して解決して

いく必要があるため，九州学校検診協議会に運動器検診部門を新たに設置するよう，平成29年の幹事会で提案することが満場一致で承認された。

出席者－高村常任理事，申間主事

## 医療事故調査制度

### 宮崎県医師会 相談窓口

宮崎県医師会は支援団体として，県内の医療機関をサポートいたします。

医療事故の判断に迷った時，また，医療事故と判断した時は，宮崎県医師会までご連絡ください。

**宮崎県医師会 電話 0985-22-5118**

#### 【受付時間】

平日の8時30分から18時，土曜日8時30分から12時30分の時間帯は，県医師会事務局の代表電話(0985-22-5118)で対応いたします。

時間外または日曜祝祭日等県医師会が対応できない場合は，国が指定した東京の医療事故調査・支援センター相談専門電話(03-3434-1110)にご連絡ください。

#### 【その他】

この制度は，医療事故の再発防止により医療の安全を確保することを目的にした制度です。対象事案を報告するか否かについては，医療機関の管理者が組織として判断することになっており，ご遺族から医療事故調査・支援センターに直接報告や調査依頼をする仕組みではありません。

## 医師国保組合だより

県医師国保組合員の皆様へ

### 第21回歩こう会について

保健事業の一環として、毎年恒例の「歩こう会」を実施します。

◎詳細については、組合員宛にお知らせしておりますので、FAXにてお申込みください。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

**日 時** 平成29年 3 月19日(日)

※県医師会館に集合して貸切バスで9時出発、15時頃会館到着。

または現地集合・現地解散となります。

**場 所** 宮交ボタニックガーデン青島(宮崎市)

### 1月のベストセラー(宮崎県)

集計：2017年1月1日～1月26日

1	九十歳。何がめでたい	佐 藤 愛 子	小 学 館
2	よるのばけもの	住 野 よ る	双 葉 社
3	こころの匙加減	高 橋 幸 枝	飛 鳥 新 社
4	声なき蝉 ^上 _下	佐 伯 泰 英	双 葉 社
5	勝ち続ける理由	原 晋	祥 伝 社
6	蜜蜂と遠雷	恩 田 陸	幻 冬 舎
7	はじめての人のための3000円投資生活	横 山 光 昭	ア ス コ ム
8	ぼくは明日、昨日のきみとデートする	七 月 隆 文	宝 島 社
9	言っではいけない	橘 玲	新 潮 社
10	ハリー・ポッターと呪いの子	J. K. ローリング	静 山 社

明林堂書店調べ 提供：本郷店(宮崎市大字本郷北方) ☎(0985)56-0868

## 日医インターネットニュースから

### ■大都市部の6都府県の募集定員に上限 — 専門医機構理事会が了承 —

日本専門医機構は1月13日の理事会で、昨年12月に策定した専門医制度新整備指針の運用細則について大筋の考え方をまとめた。専攻医の都市部集中を防ぐため、初期臨床研修制度で大都市部があるとされている6都府県での募集定員に何らかの数値上限を設ける。ただし外科、産婦人科、病理、臨床検査の少なくとも4領域は、全国的に医師数が減少・不足しているとして上限を設けない。また専門研修基幹施設は、症例数など一定以上の規模のある基本領域は各都道府県内に複数を原則とする一方、複敷にすると症例数が不足するなどの場合は、各都道府県に設ける協議会で検証し、1つとすることも認める。

理事会終了後、吉村博邦理事長ら幹部が記者会見して説明した。こうした考え方を盛り込んだ運用細則の文書案を次回2月17日の理事会で議論し、3月までに決定する。

新整備指針は、地域医療を確保する観点から「専攻医の集中する都市部の都府県に基幹施設がある研修プログラムの定員等については、都市部への集中を防ぐため、運用細則で別途定める」としている。

同日は、11日に開かれた基本問題検討委員会での結論を基に運用細則の考え方について議論。その結果、研修プログラム定員について、6都府県(東京、神奈川、愛知、京都、大阪、福岡)に基幹施設がある研修プログラムに対し、過去の採用実績を基にした数値上限を設けることを了承した。採用実績は過去3年とし、外科などの4つの領域には上限を設けない方向だが、日医の松原謙二副会長は会見で「まだ少し数値は変動すると思う」と述べ、2月の理事会までにさらに調整する考えを示した。

### ●名称は「専門医」に

一方、検討課題となっていた名称については、基本領域は「基本領域〇〇専門医」、サブスペシャリティ学会は「△△専門医」とする。

各サブスペシャリティ学会専門医の研修プログラムなどを検討するため担当基本領域学会と

ともに設置する検討委員会については、基本領域学会の了承を前提に、他のサブスペシャリティ学会も加わるようにする。また、担当基本領域が想定されないサブスペシャリティ学会の専門医は、機構が了解すれば単独での検討を認める。

基本領域学会専門医を複数取得するダブルボードについては、体系だった研修とするため、最初の専門医資格は研修プログラム制により取得する考え方を盛り込む。

(平成29年1月17日)

### ■在宅専門診療所で“指定逃れ”の実態 — 静岡県医、日医に対応要望 —

静岡県医師会が、県内で在宅医療専門診療所の届け出がゼロにもかかわらず、実態として在宅医療サービスを専門に提供している診療所が地域連携を乱しているとして、指定手続きの徹底を日本医師会に求めていることが分かった。同医師会の篠原彰会長は、メディアファックスの取材に応じ「2016年度診療報酬改定でかかりつけ医機能を補完するため、在宅医療専門診療所が新設され、要件がクリアできない場合の減算措置も規定された。ただ、現場では業務形態は在宅医療専門であるにもかかわらず、保健所へは一般診療所で届け出を行い、在宅医療専門診療所の施設要件をすり抜けている事例がある」と懸念を表明した。

篠原会長によると、静岡県内では在宅医療専門診療所の届け出が確認されていないが、▽地域医師会非会員の診療所で、東京からの日帰りアルバイト医師5～6人で在宅専門医療を行っている▽在宅医療専門の業務形態なのに、日曜日だけを外来診療日として、それ以外を訪問診療と届け出るケース—などさまざまな事例が確認されているという。

篠原会長は「週1日でも外来診療を届け出れば在宅医療専門診療所が適用されない」と問題視したほか、「外来通院可能な患者が施設に入所した途端、施設の協力医が訪問診療する形に変わり、患者と地域のかかりつけ医の関係が切れてしまうなどのケースもある。実態に即して指定されるよう保健所とも協議する予定」と強調した。

### ●「地域の実情を考慮し不適切事例に対応」

こうした要望を受け、中川俊男副会長は、本紙の取材に対し「在宅医療の適切な提供は重要な課題だ。地域のさまざまな実情も踏まえ、不適切事例に対応したい」と話した。その上で「今後、中医協で議論することになるが、地域医師会からの協力の同意を得ることを“必須要件”にするなどが課題になるのではないか」との考えを示した。

16年度改定で在宅医療専門診療所は一定要件を満たす場合に開設が認められた。▽無床診療所▽在宅医療を提供する地域をあらかじめ規定し、その範囲を周知▽地域の患者から往診、訪問診療を求められた場合正当な理由なく断ることがない—などに加え、外来診療が必要な患者が訪れた場合に対応できるよう「地域医師会から協力の同意を得ている、またはあらかじめ規定した診療地域内に2カ所以上の協力医療機関を確保している」などの要件が規定されている。(平成29年1月24日)

### ■特定健診・保健指導の見直し取りまとめ

#### － 厚生労働省・検討会 －

厚生労働省の「保険者による健診・保健指導等に関する検討会」(座長＝多田羅浩三・日本公衆衛生協会会長)は1月19日、特定健診・保健指導の運用の見直しについて、これまでの議論を取りまとめた。第3期特定健康診査等実施計画期間(2018～23年度)に向けて検討を進めていた。

17年度中にシステム改修が必要なため、今後、運用方法の詳細などを含めて、同検討会の下に設置した実務担当者によるワーキンググループで検討する。

### ●健診項目に血清クレアチニン検査を追加

特定保健指導対象者の選定基準は、現行の腹囲基準(男性85cm以上、女性90cm以上)を維持する。特定健診の項目については、検査値の連続性を担保する必要性などから現在実施している健診項目を基本的に維持する。

血中脂質検査は、中性脂肪400mg/dL以上の場合や食後採血のため、LDLコレステロールの代わりにnon-HDLコレステロールを用いて評価した場合でも、血中脂質検査を実施したと見なす。

血糖検査では、やむを得ず空腹時以外にヘモグロビンA1cを測定しない場合は、食直後を除いて随時血糖による検査を認める。

詳細な健診項目では、血清クレアチニン検査を新たに追加し、eGFRで腎機能を評価する。対象者は血圧または血糖検査が保健指導判定値以上の者のうち、医師が必要と認める者。心電図検査、眼底検査の対象者の選定基準も変更する。標準的な質問票については、歯科口腔保健の取り組みの端緒となる質問項目を追加する。

### ●特定保健指導、柔軟な運用でモデル実施

特定保健指導では、行動計画の実績評価を3カ月経過後(積極的支援の場合は、3カ月以上の継続的な支援が終了後)に行うことを可能とする。初回面接と実績評価の同一機関要件を廃止するほか、特定健診当日に初回面接を実施できるように運用方法を改善する。

積極的支援対象者に対しては、柔軟な運用による特定保健指導をモデル実施する。現在、積極的支援を実施したと見なす最低限の要件は、3カ月以上の継続的な支援のポイント数が180ポイント以上と設定されている。180ポイントに達する前に効果が現れたときは、ただポイントをこなすだけの指導を行っているなどの指摘があったことから、モデル実施では一定の要件を満たせば特定保健指導を実施したと見なす。厚生労働省はモデル実施の要件として「初回面接と行動計画の実績評価を行っている」など4項目を提示。引き続き検討する。

このほか、全保険者の特定健診・保健指導の実施率を17年度から公表することを盛り込んだほか、第3期計画期間の保険者の実施目標は第2期の目標値を据え置くことを明記した。第2期の目標値は特定健診実施率が70%以上、特定保健指導実施率が45%以上。

(平成29年1月24日)

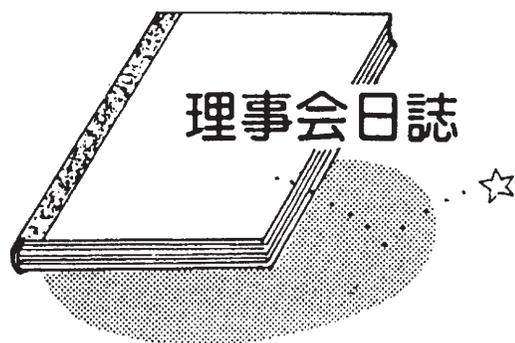
日医インターネットニュースは日本医師会ホームページからご覧になれます(毎週火・金更新)。

日本医師会(<http://www.med.or.jp/>)>メンバーズ>日医インターネットニュース

#### メンバーズルームへのアクセス方法

◆ユーザーID：会員ID番号(日医刊行物送付番号)の10桁の数字(半角)

◆パスワード：生年月日の「西暦2桁、月2桁、日2桁」の6桁の数字(半角)



平成28年12月6日(火)第24回常任理事協議会

## 医師会関係

### (議決事項)

#### 1. 本会外の役員等の推薦について

①宮崎県小児慢性特定疾病審査会委員の推薦及び就任について

→小児慢性特定疾患治療研究事業の適正かつ円滑な実施を図ることを目的に設置された審査会で、任期満了に伴う推薦依頼があり、引き続き高村常任理事及び三宅和昭先生を推薦することが承認された。

#### 2. 後援・共催名義等使用許可について

①平成29年2/7(火)(宮崎市民プラザ)第3回宮崎県民生委員児童委員大会に対する後援名義の使用許可について

→県内各地で活躍する民生委員・児童委員がともに励まし合い、それぞれの活動内容等を共有すると共により一層の活動充実を目指す大会で、名義後援を行うことが承認された。

#### 3. 平成29年5/20(土)(宮観ホテル)講師派遣依頼について

毎年、県柔道整復師会が会員の資質向上を目的に開催している学会で、特別講演講師の派遣依頼があり、県整形外科医会に人選をお願いすることが承認された。

#### 4. 国税庁ホームページを活用した確定申告

##### 書作成についての周知等のお願いについて

医療機関の来院者は、医療費控除の確定申告も予想されることから、宮崎税務署から国税庁のホームページを利用した確定申告の周知依頼があり、県医師会のメーリングリスト(MMA通信)を通じて案内することが承認された。

### (報告事項)

1. 11月末日現在の会員数について
2. 12/3(土)(日医)平成28年度家族計画・母体保護法指導者講習会について
3. 12/1(木)(日医)都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会について
4. 12/2(金)(県医)県医中間監事監査について
5. 12/6(火)(県庁)地方公務員災害補償基金県支部審査会について
6. 11/30(水)(県医)宮崎の医療を考える会(若手記者との勉強会)について
7. 12/2(金)(日医)大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会について
8. 12/5(月)(うなまんもん)広報委員会について
9. 12/6(火)(県医)治験審査委員会について
10. 12/1(木)・12/5(月)(県医)生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)について

## 医師連盟関係

### (議決事項)

#### 1. 党紀委員会開催のご案内について

県議会議員の復党及び宮崎市議会議員の処分に関する件が諮られる委員会で、河野委員長が出席することが承認された。

平成28年12月13日(火)第25回常任理事協議会

## 医師会関係

### (議決事項)

#### 1. 妊娠等について悩まれている方のための相談援助業務の委託契約について

児童虐待未然防止を目的として、養護教諭等を対象にした性教育研修会、リーフレット及び相談窓口紹介カードの配布等を実施する事業で、契約を締結することが承認された。

#### 2. 後援・共催名義等使用許可について

①平成28年度一般社団法人宮崎県介護支援専門員協会研究大会の名義後援について  
→「つなげよう みんなの思いをひとつに～これからの地域包括ケアシステムに向けて～」をテーマに開催される研究大会で、名義後援を行うことが承認された。

#### 3. 平成29年 2 / 25(土)宮崎県医師会創立128周年記念医学会について

毎年 2月25日に開催している記念医学会で、例年通り医神祭に引き続き医学賞受賞者の講演と特別講演を行うことが承認された。

#### 4. 平成29年度妊婦及び乳幼児健康診査並びに眼科及び耳鼻咽喉科に係る三歳児精密健康診査における審査事務費の見積りについて

1件当たりの審査事務費を51円として、県内26市町村に提案することが承認された。

#### 5. 平成29年度の特健康診査等の集合契約書について

診療報酬改定に伴う料金の変更を行った委託料単価(基本的な健診項目8,360円,貧血検査226円,心電図検査1,404円,眼底検査1,209円)で契約を進めることが承認された。

#### 6. 宮崎県感染症発生動向調査事業における指定届出機関の推薦について

宮崎市保健所管内で眼科を標榜する医療機関の辞退申し出に伴う推薦依頼で、県眼科医会に選定を依頼することが承認された。

### (報告事項)

- 12/ 7(水)(東京)社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会について
- 12/ 7(水)(ホテル中山荘)都城市北諸県郡医師会忘年会について
- 12/ 9(金)(県庁)医療従事者確保予算に関する県への要望について
- 12/13(火)(新富)「自信をもって取り組める医薬品の教育」研修会開会式について
- 12/ 7(水)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について
- 無資格者による人工妊娠中絶術報道について
- 12/10(土)(県医)生活習慣病検診従事者研修会(肺・乳・胃・大腸がん検診研修会)について
- 12/ 7(水)(日医)医療事故調査制度に係る支援団体統括者セミナーについて
- 12/12(月)(県医)医学賞選考委員会について
- 12/15(木)個別指導等の実施に係る立会いについて
- 12/ 8(木)(県医)女性医師委員会について
- 県医師会Webページリニューアルについて
- 12/ 8(木)(東京)日医・米国研究製薬工業協会(PhRMA)共催シンポジウムについて
- 12/ 9(金)(ホテルメリージュ)県総合診療フォーラムについて
- 12/10(土)(宮観ホテル)文部科学省事業「地域包括ケアを担う医療・保健・福祉の多職種連携教育コーディネーター養成プログラム開発事業」ごちゃまぜGO!について

## 医師連盟関係 (報告事項)

1. 12/12月(自民党県連)自民党県連党紀委員会について
2. 自見はなこ参議院議員2016年の年末メッセージについて

平成28年12月20日(火)第10回全理事協議会

## 医師会関係 (議決事項)

1. 各郡市医師会長協議会の開催について  
都道府県医師会長協議会(1/17)の報告を中心に開催する協議会で、当日のスケジュール等の確認が行われ、各郡市医師会に案内することが承認された。
2. 平成29年2/4(土)(熊本)「九州医師会連合会平成28年度第2回各種協議会」の提案事項に対する回答について  
各県医師会から出された提案事項に対する回答依頼で、医療事故調査制度は濱田副会長、地域医療は池井常任理事、医療保険は小牧常任理事、介護保険は金丸常任理事が責任者となり、回答の取りまとめを行うことが承認された。
3. 会費減免申請について  
在籍20年以上で満80歳(県医)の高齢による会費減免2名が承認された。
4. 第30回県医師会医学賞の推薦について  
県医師会医学賞選考委員会から推薦された「宮崎県産婦人科医会による思春期相談事業7年間の分析」山口昌俊先生他(県医師会医学会誌第39巻第2号)を医学賞とすることが承認された。なお、過去の表彰と整合性をとるため表彰名を確認することとなった。

5. 平成29年1/12(木)(JA-AZM)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者の個別指導等の実施に係る立会いについて

1 医療機関を対象に行われる個別指導で、立元常任理事を立会人として派遣することが承認された。

6. 平成29年2/17(金)(東京)一般財団法人医療関連サービス振興会「第26回シンポジウム」の案内について

「地域包括ケアシステムの中軸としての医療介護連携と医療関連サービス～地域で治し支える医療への広がりをも踏まえて～」をテーマに開催されるシンポジウムで、金丸常任理事が出席することが承認された。

7. その他

①宮崎県医師会創立128周年記念医学会の講師について

→来年2月25日に開催される記念医学会の講師について、救急災害医療関連及び新専門医制度関連に絞り引き続き人選を進めることが承認された。

②平成28年度の職員採用及び退職について  
→平成28年度の状況として、採用者3名(12/1及び平成29年4/1)及び退職者(7/31及び12/31)2名の説明が行われ承認された。

## (報告事項)

1. 週間報告について
2. 12/14(水)(支払基金)支払基金幹事会について
3. 12/14(水)(県庁)県がん対策審議会について
4. 12/19(月)(県医)医療保険委員会について
5. 12/14(水)(県庁)DV被害者保護支援ネットワーク会議について
6. 12/15(木)(県医)広報委員会について

7. 12/17(土)(沖縄)女性医師支援センター事業九州ブロック会議について
8. 12/17(土)・18(日)(シーガイア)指導医及び臨床研修事務担当者のための教育ワークショップについて
9. 12/15(木)(県医)感染症危機管理研修会について
10. 12/19(月)(県医)次年度の運動器検診についての打合せについて
11. 11/30(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について
12. 12/12(月)(宮大医学部)県ドクターヘリ運航調整委員会について
13. 12/16(金)(宮大医学部)宮大医学部医の倫理委員会について
14. 12/ 8(木)(JA-AZM)社会保険医療担当者の新規個別指導について

医師協同組合理事・運営委員合同協議会  
(報告事項)

1. 12/20(火)(宮観ホテル)医協理事会について

平成28年12月27日(火)第26回常任理事協議会

医師会関係  
(議決事項)

1. 2/ 4(土)(熊本)九医連第361回常任委員会の提案事項について  
第2回各種協議会に合わせ開催される常任委員会で、提案事項については会長一任とし、役員で提案がある場合は事務局まで申し出ることが承認された。
2. 本会外の役員等の推薦について  
①第3期宮崎県医療費適正化計画策定検討委員会委員の推薦について  
→高齢者の医療の確保に関する法律に基づき、平成30年度から6年間を対象に策定される計画の検討委員会で、池井常任

理事を委員として推薦することが承認された。

3. 1/19(木)(JA-AZM)新規集団指導(医科)の実施について

7医療機関を対象とする新規集団指導の後、県医師会主催で「指導・監査」、「県医師会の活動」等をテーマに、説明会を開催することが承認された。

4. 2/17(金)(日医)平成28年度女性医師支援事業連絡協議会の開催について

各ブロックや都道府県医師会の女性医師支援に関する先進的な取り組み等の情報を共有するために開催される協議会で、荒木常任理事及び糸数理事が出席することが承認された。

5. 3/ 3(金)(日医)平成28年度臨床検査精度管理調査報告会の開催について

調査結果の分析・検討を行うことにより参加施設の質的向上に資することを目的に開催される報告会で、参加者の人選を県臨床検査技師会にお願いし派遣することが承認された。

6. 2/19(日)(日医)平成28年度母子保健講習会及び3/19(日)(日医)学校保健講習会の開催について

母子保健講習会に濱田副会長、学校保健講習会に高村常任理事が出席すること及び各郡市医師会に案内することが承認された。

7. 1・2月の行事予定について

1月の追加行事の確認が行われた。

8. その他

①有床診療所等スプリンクラー等施設整備事業について

→有床診療所及び中小病院に対するスプリンクラー等施設整備については、今まで県有床診療所協議会を中心に対応して

いたが、県内の有床診療所の整備も進んできたことから、今後、県医師会(引き継ぎ川野理事が担当)が窓口となることが承認された。

②医療機関が行うメンタルヘルス、ストレスチェックについて

→保険者等と医療機関が個別に契約するメンタルヘルス相談及び面接指導等については、契約単価等が低く抑えられているのではないかとの問題提起があり、状況を調査すると共に県医師会として関与できないか確認することが承認された。

(報告事項)

1. 12/21(水)(ホテルメリージュ延岡)延岡市医師会忘年会について
2. 12/22(木)(江戸長)西都市西児湯医師会忘年会について
3. 12/21(水)(日医)日医医療秘書認定試験委員会について
4. 12/27(火)(県庁)県医療審議会医療法人部会について

5. 12/27(火)(九州厚生局宮崎事務所)九州地方社会保険医療協議会宮崎部会について

6. 平成29年2月からの宮崎県医師会館電力供給事業者について

医師連盟関係

(議決事項)

1. 1/7(土)(宮観ホテル)平成29年三師会合同新春懇談会について

当日の進行及び来賓を含む出欠状況等の確認が行われた。

2. 1/28(土)(宮観ホテル)「たけい俊輔後援会連合会新年会」開催の案内について

河野委員長のスケジュールを確認すると共に役員で出席が可能な方は事務局まで申し出ることが承認された。

3. 2/17(金)(宮観ホテル)自民党宮崎市支部新春政経懇談会について

河野委員長のスケジュールを確認すると共に役員で出席が可能な方は事務局まで申し出ることが承認された。

# 県 医 の 動 き

(1月)

1	(年始休業)	
2	(年始休業)	
3	(年始休業)	
4	新年賀詞交歓会(会長他)	
5	宮大医学部カリキュラム委員会(会長) 県臨床研修・専門研修運営協議会WG (金丸常任理事)	
7	(熊本)九医連九州ブロック災害医療研修会 (富田副会長他) (熊本)九州各県医師会救急災害医療担当理事 連絡協議会(富田副会長他) 三師会合同新春懇談会(会長他)	
8	(熊本)九医連九州ブロック災害医療研修会 (富田副会長他) 緩和ケアチーム研修会(石川常任理事)	20 医師国保組合理事会(秦理事長他)
10	治験審査委員会(富田副会長他) 第27回常任理事協議会(会長他)	21 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会 (福岡)次期診療報酬改定の要望事項に係る 九医連医療保険対策協議会(濱田副会長他)
11	県総合計画審議会・県地方創生推進懇談会 (会長) 日医救急災害医療対策委員会(日医TV会議) (佐々木常任理事) 職員内定者オリエンテーション 支払基金幹事会(会長) 病院部会・医療法人部会理事会・新年会 (池井常任理事) 職員内定者懇談会(立元常任理事他)	22 県アイバンクライオンズ協力会御芳名奉納式 23 広報委員会(荒木常任理事他) 県感染症危機管理・予防接種実務担当者研 修会(TV会議)(高村常任理事他) 県産婦人科医会と宮崎市との産婦健診に関 する協議(濱田副会長他)
12	社会保険医療担当者の個別指導 (立元常任理事) 保育事業打合せ会(荒木常任理事他) ロコモティブシンドローム予防講演会 (川野理事他) 県産婦人科医会常任理事会(濱田副会長他)	24 医協打合せ会(立元副理事長) 第29回常任理事協議会(会長他)
13	道交法改正の認知症診断等に関する県警免 許センターとの意見交換会(富田副会長他) 労災部会自賠委員会(川野理事) 宮崎市郡医師会新年例会並びにしのめ医 学会特別講演会(会長) 損害保険医療協議会(川野理事)	25 労災診療指導委員会(川野理事他) 医療事故調査支援委員会常任委員会 (会長他)
14	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会 産業医研修会(TV会議)(佐々木常任理事他)	26 宮大経営協議会・学長選考会議(会長) (日医)日医医療IT委員会(荒木常任理事) 宮大学長等との意見交換会(会長) 医協理事会(富田理事長他) 県内科医会誌編集委員会(小牧常任理事) 県外科医会全理事会(岩村理事)
16	宮大医学部医の倫理委員会(糸数理事) 糖尿病性腎症重症化予防プログラム策定に 向けたデータ分析事業会議(金丸常任理事) 広報委員会(富田副会長他)	27 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 (濱田副会長) 人体シミュレータを用いた在宅医療研修会
17	(日医)日医連常任執行委員会(河野委員長) (日医)都道府県医師会長協議会(会長) (日医)日医連執行委員会(河野委員長他) (日医)都道府県医師会長協議会・日医連執 行委員会合同新年会(会長) 第28回常任理事協議会(濱田副会長他)	28 自賠責保険研修会(会長他) 県産婦人科医会冬期総会(濱田副会長他)
		29 (日医)在宅医療関連講師人材養成事業研修会 (富田副会長他)
		30 県感染症発生動向調査委員会(濱田副会長) 高次脳機能障害講演会(TV会議) (吉田常任理事他) スプリンクラー等の施設整備に係る補助制 度説明会(川野理事)
		31 みやざき東京オリンピック・パラリンピック おもてなしプロジェクト講演会(佐藤理事) 第11回全理事協議会(会長他) 医協理事・運営委員会合同協議会(会長他) 各郡市医師会長協議会(会長他)

## 追悼のことば

南那珂医師会

岩 田 達 男 先生

(昭和2年2月26日生 90歳)

### 弔 辞

本日ここに、故 岩田達男先生のご葬儀が執り行われるにあたり、南那珂医師会を代表いたしまして、謹んで哀悼の意を表し、ご霊前にお別れの言葉を申し上げます。

12月13日午後2時49分に先生がお亡くなりになったとの突然のご訃報に接しまして、何とも申し上げる言葉もなく、会員一同驚きと深い悲しみに包まれております。ましてやご家族ご親族の皆様のご悲嘆は如何ばかりかとお察し申し上げ、医師会員一同衷心より哀悼の意を表する次第でございます。

先生は、昭和27年3月に久留米医科大学を御卒業になり、昭和28年からは久留米医科大学医学部第一外科助手を拝命され研鑽をつまれました。昭和32年には医学博士の学位も取得されておられます。

昭和34年10月から昭和39年4月まで県南地区の中核病院であります宮崎県立日南病院外科医長としての要職を歴任されました。

先生は医局長を退任されたあと、奥様と二人で車で久留米より宮崎に来られ、宮崎駅に県立日南病院の車が待っていたそうです。舗装もされていない道を走り、病院に着くと山見先生が出迎えてくれたそうです。「ついにここまで来たか」と奥様は不安がられていたとお聞きました。

先生は、県立日南病院で初めて全身麻酔下の

胃の手術を行なわれ、多くの患者さんを救い、「腹部外科の名手日南にあり」と知られる存在でありました。

また、同年5月に現在地で岩田外科医院を開業されてからは、地域住民の高齢化社会を迎えるの健康相談、健康維持管理に尽力され、健康事業、産業医事業、予防接種事業等に積極的に取り組み、地域医療、住民の健康管理及び生活習慣病予防等に多大な貢献を果たされました。こうした地域医療に対する功績が評価され、平成12年11月に老人保健事業功労、また、平成13年6月には県医療功労者としてそれぞれ宮崎県知事表彰を受賞されております。

産業医活動では、複数の産業医を務め、職場巡視、健康管理、生活習慣病の予防、メンタルヘルス保持増進等に寄与され、その功績に対し、平成2年10月に宮崎県労働基準局長表彰を受賞されております。

また、先生は南那珂医師会の理事として昭和55年4月から昭和57年3月までの2年間と昭和61年4月から平成4年3月までの6年間、議長として平成6年4月から平成8年3月までの2年間、会長として平成8年4月から平成16年3月までの8年間、通算18年間の長い間医師会の要職を務められました。

平成8年度からは、厚生労働省並びに宮崎県の指定を受けて、県下初めての「かかりつけ医推進モデル事業」を実施し、その一端として、医療・福祉の総合マップを作成し、二市二町の全世帯に配布し、かかりつけ医の推進に努め、その向上に貢献されました。また、平成11年3月に医師会立の准看護学校が受験生減少により閉校になった際には、「県南地区の看護の灯を消してはならない」と言い続け、行政及び日南学園高校と日夜交渉し、平成14年4月に日南看

護専門学校を設立する等、医療従事者の育成に大きく貢献されました。

更に、平成14年7月の国立療養所日南病院統廃合の際には、重度重心患者病棟を日南に残したいとの地元の強い願いを受け、行政・県医師会等と鋭意折衝し、愛泉会日南病院として存続するなど、地域の医療の発展に尽力されました。

先生のこのような数々のご功績により、平成18年11月には、保健衛生功労者として「旭日道光章」という栄誉を受けておられます。

会長職を退かれてからも、総会などの医師会行事に参加し、私達若い会員を励まし、優しくご指導いただき、医師連盟活動にも積極的にご尽力賜り、その大切さを強く訴えてられました。

このように多くの業績を日南に残してこられた先生ですが、園田二十日会という月に一回の医師会の会合で見せる先生はとても気さくで、先生の体験談を私と桐村先生は、毎回とても楽しく拝聴していました。「元気になれば、先生に思いっきり話してもらおう場をつくろうね」と

桐村先生と相談していたところでした。もう一回「ミストラル」に先生を連れて行きたかった。先生、残念です。

これまで先生が地域医療の発展のために尽くしてこられた御遺志は、ご子息の洋先生が立派に受け継いでいかれます。

私達会員は先生を見習い、現在の厳しい医療制度の中にあっても地域住民の健康を第一に考えて、医師としての倫理を保ちながら、地域住民の医療・保健・福祉の発展の為に日々の診療を行って参る覚悟です。先生、どうかこれからも天国より私達会員を見守って下さい。

最後になりましたが、先生の永年に亘る地域医療へのご貢献に対しまして会員一同深い尊敬と感謝の言葉を捧げますと共に、心からご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉と致します。

岩田達男先生、どうぞ安らかにお眠り下さい。

平成28年12月16日

一般社団法人 南那珂医師会  
会長 島田雅弘

## 追 悼 の こ と ば

都城市北諸県郡医師会医師会

永 田 利 安 先生

(昭和16年 6 月22日生 76歳)

## 弔 辞

本日ここに、今は亡き永田利安先生のご葬儀が執り行なわれるにあたり、都城市北諸県郡医師会を代表いたしまして、謹んで哀悼の意を表し、お別れの言葉を申し上げます。

先生が体調を崩され、11月からは都城市郡医師会病院にご入院されているとお聞きいたしましたので、私ども会員一同、一日も早い回復を念じておりました。

しかし、医療スタッフの懸命な治療や、奥様をはじめ、ご家族の手厚い看護にもかかわらず、去る12月16日午前8時33分、帰らぬ人となりました。突然の訃報に、ただただ驚くほかにありませんでした。

先生 急逝の知らせは、程なく全会員に伝えられ、会員一同、深い悲しみに包まれているところでございます。

ましてや、奥様をはじめ、ご家族、ご遺族の皆様方のお悲しみは、如何ばかりかとお察し申し上げます。会員一同、心より哀悼の意を表する次第でございます。

先生は、昭和16年6月22日、鹿児島市で二人兄弟の長男として、お生まれになりました。長じて医学の道を志し、昭和45年に久留米大学医学部をご卒業され、同大学医学部附属病院にて実施修練を積まれ、医師としてのスタートをきられました。昭和54年には医学博士の学位も取得されておられます。

昭和55年4月に地域医療に貢献されるべく、ご実家である永田病院に帰られ、お父様の後を継がれ、その後理事長に就任されておられます。以来、今日まで、36年の永きにわたり、地域住民の医療、保健、福祉の向上にご尽力されてこられました。

先生のこれまでのご功績といたしまして、精神医療功労として、平成15年に宮崎県知事表彰、平成17年に厚生労働大臣表彰、そして平成27年には春の叙勲 瑞宝小綬章を受けておられます。

先生は、私ども医師会活動におきましても、多忙な診療の傍ら、都城市北諸県郡医師会 理事を昭和61年から三期6年間、医事紛争や広報・医苑編集、労務福祉を担当されました。看護師の養成にも積極的に取り組まれ、都城看護専門学校講師を17年間務められました。また、実習施設として現在もなお、看護学生の受入れのご協力をいただいております。

学校医、嘱託医としても、都城養護学校をはじめ宮崎県立宮崎学園、高千穂学園などを永らく勤められ、児童生徒などの保健衛生並びに健康管理に精力的に取り組まれました。

先生は、医師会活動の他にも、宮崎県精神科病院協会の副会長、理事を歴任され、医療施設の向上発展、社会福祉の増進にご尽力されました。

最後になりましたが、先生がこれまで地域医療に捧げられましたご功績に対し、深い尊敬と感謝の意を表し、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます、お別れの言葉と致します。

平成28年12月19日

都城市北諸県郡医師会

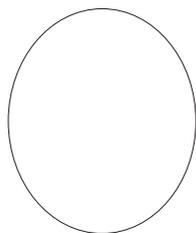
会長 飯 田 正 幸

## ニューメンバー

新入会員と新規開業会員をご紹介します。

都城市  
ゆうクリニック

かわ の いく こ  
河 野 郁 子

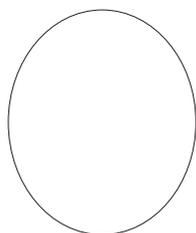


住 所	都城市
専門科目	一般内科
略 歴	昭和58年 宮崎南高校卒業 平成2年 久留米大学医学部卒業 平成5年 宮崎医科大学放射線科 入局 平成18年～都城市健康サービス 平成22年 センター勤務 平成28年 ゆうクリニック開業
趣 味	テニス・スポーツ観戦

**自己紹介** 宮崎市内の出身で高校時代まで過ごし大学卒業後に戻って、実家の病院にも勤務しておりました。その後、都城市に主人がテニスクラブを開設したこともあり、私も住所を移しました。縁あってこの度、平成28年3月に開業いたしました。私を含めスタッフは全て女性ですので、地域の皆様の健康の相談窓口のような気軽に来院できるクリニックを目指し微力ながら頑張りたいと思っています。これまでご指導くださった先生方に感謝しつつ、これからは地域医療に尽くしたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

国富町  
田中外科医院

ほし こ しん り  
星 子 新 理



住 所	国富町
専門科目	消化器内科，内科
略 歴	平成15年 久留米大学医学部卒業 同 年 宮崎大学医学部第一内科 入局 平成25年 宮崎大学大学院卒業 (病理学講座腫瘍・再生 病態学分野) 平成26年 大腸肛門病センター 高野病院 平成28年 俊生会 田中外科医院

**自己紹介** 平成28年11月より国富町の田中外科医院に勤務しております。宮崎大学第一内科，高野病院(熊本市)で、消化管内視鏡診断，大腸ESDを含めた内視鏡治療，がん検診，炎症性腸疾患の診療に携わってまいりました。これまでの経験を生かし地域医療に貢献していきたいと考えております。とは言え，地域医療のニーズは幅広く，特に在宅診療においては，スタッフ，多職種の方々と日々研鑽の毎日です。若輩者ですが今後ともどうぞよろしくお願致します。

## ドクターバンク情報

(無料職業紹介所)

平成29年 1月12日現在

本会では、会員の相互情報サービスとしてドクターバンク(求人・求職等の情報提供)を設置しております。登録された情報は、当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。

現在、下記のとおり情報がよせられております。お気軽にご利用ください。

お申し込み、お問い合わせは当紹介所へ直接お願いいたします。

また、宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

## 1. 求職者登録数 5人

## 1) 男性医師求職登録数 5人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内科	3	2	1
老健	2	1	1

## 2) 女性医師求職登録数 0人 (人)

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
	0	0	0

## 2. 斡旋成立件数 55人 (人)

	男性医師	女性医師	合計
平成28年度	3	1	4
平成16年度から累計	40	15	55

## 3. 求人登録 96件 332人 (人)

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤
内科	118	88	30
外科	28	24	4
整形外科	25	22	3
精神科	18	16	2
循環器科	7	6	1
脳神経外科	12	9	3
消化器内科	12	9	3
麻酔科	10	8	2
眼科	6	5	1
放射線科	10	9	1
小児科	1	0	1
呼吸器内科	11	10	1
リハビリテーション科	5	4	1
総合診療科・内科	7	6	1
神経内科	7	6	1
救命救急科	7	7	0
健診	3	1	2
産婦人科	1	1	0
泌尿器科	1	0	1
検診	4	2	2
皮膚科	3	2	1
人工透析	4	4	0
在宅担当医	1	1	0
その他	31	26	5
合計	332	266	66

## 求 人 登 録 者(公開)

※求人情報は、申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合、  
無料職業紹介所(ドクターバンク)へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は、公開について同意をいただいております。

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	赤十字センター	宮崎市	検診	3	常勤・非常勤
160013	医)三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	脳外,整,放,麻,内	10	常勤・非常勤
160017	医)プレストピア プレストピア宮崎病院	宮崎市	乳外,放,内,麻	3	常勤
160020	財)弘潤会 野崎病院	宮崎市	精,内	2	常勤
160031	社医)同心会 古賀総合病院	宮崎市	呼内,神内,眼,総診,呼外 臨病,乳外,整外,麻酔	11	常勤
160033	医)如月会 若草病院	宮崎市	精	2	常勤
170046	医)社団善仁会 市民の森病院	宮崎市	消内,内分泌内,呼内, リウマチ,神経内,健診	6	常勤・非常勤
170048	医)慶明会 けいめい記念病院	国富町	内,放,在宅	3	常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内,神内,整,消内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮崎市	内(緩和),消内,呼内,総診	8	常勤
190094	医)耕和会 迫田病院	宮崎市	総内,内視鏡	6	常勤・非常勤
190095	医)慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	1	常勤
200104	医)社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	内,外,救急,呼外,婦人,整, 麻	7	常勤
200105	医)誠友会 南部病院	宮崎市	内,外,放	3	常勤
210110	医)幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮崎市	内,整,リハ	7	常勤・非常勤
230128	医)真愛会 高宮病院	宮崎市	内,精	2	常勤
230132	医)康友会 青島クリニック	宮崎市	内	1	常勤
230134	医)慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	1	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国富町	内,外	2	常勤
230143	医)社団孝尋会 上田脳神経外科	宮崎市	脳外,内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮崎市	総内,呼内,消内,健診	8	常勤・非常勤
230146	財)潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮崎市	内,神内,外,整,脳外,リハ, 麻酔,救急,緩和	10	常勤
230148	医)コムロ美容外科	宮崎市	美外,形成外,外,麻酔	8	常勤・非常勤
230161	医)健心会 滝口内科病院	宮崎市	内	2	常勤・非常勤
230164	宮崎県保健所	宮崎市	公衆衛生	3	常勤
230165	野崎病院健診センター	宮崎市	健診	1	非常勤
230171	医)いなほ会 日高病院	宮崎市	内	1	非常勤
230174	医)常聖会 巴外科内科	宮崎市	内	1	非常勤
230175	社会福祉法人 キャンパスの会	宮崎市	内,小,整	1	常勤
230177	医)社団尚成会 近間病院	宮崎市	内,消内,消外,放(いずれか)	1	常勤・非常勤
230178	介護老人保健施設 むつみ苑	宮崎市	内	1	常勤
230180	一社)藤元メディカルシステム 藤元中央病院	宮崎市	内,糖内,呼内,血内	4	常勤
160008	医)正立会 黒松病院	都城市	泌	1	非常勤
160010	徳医)敬和会 戸嶋病院	都城市	内,消内,整,神内	7	常勤・非常勤
160018	医)宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	内,救急,放,脳外,外,眼, 透内,皮	8	常勤
170057	医)清陵会 隅病院	都城市	内,外,整	3	常勤
180064	国立病院機構都城医療センター	都城市	内,呼内,総診	4	常勤
180081	医)恵心会 永田病院	都城市	精	1	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都城市	内,呼内	6	常勤
210114	藤元病院	都城市	精,内	3	常勤
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	外,内,整	7	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都城市	不問	1	常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230137	医) 宏仁会 海老原内科	都 城 市	内	1	常勤
230142	医) 魁成会 宮永病院	都 城 市	内, リハ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都 城 市	内	1	非常勤
230157	医) 一誠会 都城新生病院	都 城 市	精, 内	4	常勤・非常勤
230162	藤元総合病院	都 城 市	内, 透, 循内, 救急, 放, 病理, 呼内, 精	16	常勤
230172	医) 静雄会 藤元上町病院	都 城 市	内	4	常勤・非常勤
230176	一社) 藤元メディカルシステムグリーンホーム	三 股 町	内	1	常勤
230179	医) 与州会 柳田クリニック	都 城 市	外	1	非常勤
230181	介護老人保健施設 はまゆう	三 股 町	内	1	常勤
230183	医) 恵心会 坂元医院	都 城 市	消内, 老人内	2	非常勤
160012	医) 伸和会 共立病院	延 岡 市	外, 整, 放, 内	6	常勤
160021	医) 建悠会 吉田病院	延 岡 市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医) 健寿会 黒木病院	延 岡 市	外, 内, 緩和	6	常勤・非常勤
190086	早田病院	延 岡 市	内	1	常勤
200100	医) 育生会 井上病院	延 岡 市	産婦, 内	2	常勤
200102	延岡市医師会病院	延 岡 市	消内, 消外, 内	5	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延 岡 市	内, 小	2	非常勤
230151	介護老人保健施設エクセルライフ	延 岡 市	内	1	常勤
230156	医) 中心会 野村病院	延 岡 市	内, 外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延 岡 市	内	1	非常勤
160039	医) 誠和会 和田病院	日 向 市	外, 内, 整, 神内	6	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門 川 町	内	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美 郷 町	内, 整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美 郷 町	内	1	常勤
230160	日向市立東郷病院	日 向 市	内, 整	2	常勤
160006	都農町国保病院	都 農 町	内, 放, 外	3	常勤
160023	医) 宏仁会 海老原総合病院	高 鍋 町	整, 内, 総診, 麻, 眼, 健診, 循内, 脳	10	常勤・非常勤
230170	介護老人保健施設なでしこ園	高 鍋 町	内	1	常勤
160024	医) 隆徳会 鶴田病院	西 都 市	内, 外	2	常勤
150002	医) 慶明会 おび中央病院	日 南 市	内, 外, 整	4	常勤・非常勤
150003	医) 同仁会 谷口病院	日 南 市	内	1	非常勤
160022	医) 愛鍼会 山元病院	日 南 市	内	2	常勤
160037	医) 十善会 県南病院	串 間 市	精, 内(いずれか)	1	常勤
170047	日南市立中部病院	日 南 市	内, 外, 整, リハ, 在宅	5	常勤
180071	串間市民病院	串 間 市	内, 外	2	常勤
230138	小玉共立外科	日 南 市	不問	2	常勤・非常勤
230149	介護老人保健施設おびの里	日 南 市	内	2	常勤・非常勤
230166	医) 秀英会 英病院	串 間 市	内	1	常勤
230168	医) 月陽会 きよひで内科クリニック	日 南 市	内	7	常勤・非常勤
230182	串間市市木診療所	串 間 市	総診, 内(いずれか)	1	常勤
160019	医) 相愛会 桑原記念病院	小 林 市	内, 皮	4	常勤・非常勤
170043	医) 和芳会 小林中央眼科	小 林 市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小 林 市	救急, 総診, 放	5	常勤
180076	医) 友愛会 園田病院	小 林 市	外, 循内, 整, 脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医) 浩然会 内村病院	小 林 市	精, 内	3	常勤
190091	医) 友愛会 野尻中央病院	小 林 市	整, 内	4	常勤・非常勤
230155	医) 三和会 池田病院	小 林 市	脳外, 内, 放, 外, リハ	6	常勤・非常勤
230167	介護老人保健施設さわやかセンター	小 林 市	内	1	非常勤
230169	医) 連理会 和田クリニック	小 林 市	内	2	常勤
230173	医) 高千穂会 大森内科	小 林 市	内	2	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内, 外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内, 透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内, 整	1	常勤

## 病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成29年1月12日現在

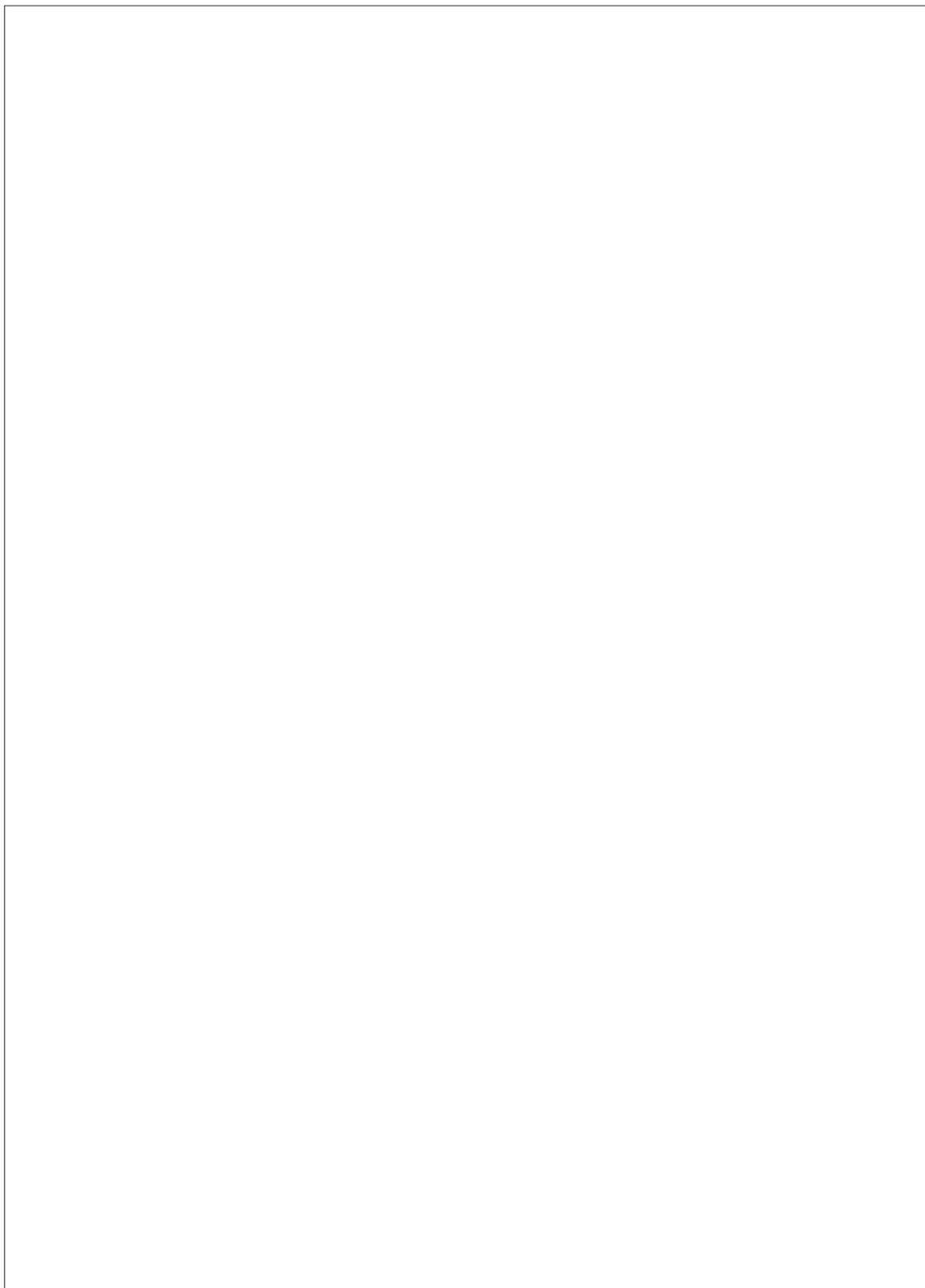
1. 譲渡物件	①宮崎市阿波岐ヶ原町前田 2633番，2634番 土地のみ：2022.17㎡ (593.57坪)	所有者：児湯医師会員 (医) 崧雲会 林クリニック
	②西都市中央町2丁目6番地 土地：2,280.83㎡ (691.16坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根3階建 1階 674.74㎡ } 2階 547.79㎡ } 1,400.48㎡ (424.38坪) 3階 177.95㎡ } ※別途駐車場あり(20台)	所有者：西都市西児湯医師会員 函師医院跡
2. 譲渡又は 賃貸物件	①小林市南西方49番地1 土地：1,991.34㎡ (603.43坪) 建物：鉄筋コンクリート造陸屋根2階建 1階 471.41㎡ } 2階 638.35㎡ } 1,109.76㎡ (336.29坪) ※駐車場あり(30台)	所有者：西諸医師会員 (医) 社団 産婦人科 生駒クリニック跡
	②日向市鶴町2丁目9番15号 土地：792㎡ (240坪) 建物：RC造 鉄骨造 1階 237.49㎡ } 2階 338.25㎡ } 913.99㎡ (276.96坪) 3階 338.25㎡ } ※別途駐車場あり(10台)	所有者：日向市東臼杵郡医師会員 三ヶ尻整形外科跡

### ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1. 取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2. 紹介受付は，月～金の9時～12時及び13時～17時です。
3. 申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4. ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5. 求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6. 斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

#### お問合せ先 ドクターバンク無料職業紹介所

〒 880-0023 宮崎市和知川原1丁目101番地(宮崎県医師協同組合)  
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179  
E-mail: isikyou@miyazaki.med.or.jp



## 日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

### 宮崎県医師会広報委員会

E-Mail : genko@miyazaki.med.or.jp

FAX : 0985-27-6550

TEL : 0985-22-5118

日州医事では、読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や、読みたい記事のご提案など、忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお、いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は、このページを切り取り、

裏面の原稿用紙もご利用になれます。

宮崎県医師会広報委員会 行 FAX: 0985-27-6550

き  
り  
と  
り  
せ  
ん

お名前：

ご所属：

T E L :

F A X :

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成29年 1 月 31 日

		2 月							
1	水	13:30	県歯科保健推進協議会	16	木	15:00	宮崎産業保健総合支援センター運営協議会		
2	木	15:00	(日医)日医予防接種・感染症危機管理対策委員会	17	金	19:00	医師国保組合理事会		
		18:30	更新時集団指導(TV会議)			13:00	医療関連サービス振興会シンポジウム		
		19:00	県内科医会理事会			13:00	国保連合会通常総会		
		19:00	県肝炎対策懇話会			14:00	(日医)日医女性医師支援事業連絡協議会		
		19:30	県産婦人科医会情報システム・広報委員会			15:00	(日医)日医医療秘書認定試験委員会		
3	金	19:00	認知症サポート医フォローアップ研修会(TV会議)	19:00	県外科医会冬期講演会	19:00	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会		
4	土	14:00	九医連医療事故調査制度担当理事連絡協議会	18	土	19:00	広報委員会		
		15:40	県スポーツドクター連盟総会			13:00	宮崎救急医学会		
		16:00	九医連各種協議会			14:00	人体シミュレータを用いた在宅医療研修会		
		16:00	九医連常任委員会			14:30	かかりつけ医認知症対応力向上研修会(TV会議)		
		16:00	健康スポーツ医学セミナー			16:00	勤務医部会後期講演会		
18:10	九医連各種協議会報告会								
5	日	13:00	日医医療秘書認定試験	19	日	13:00	(日医)日医母子保健講習会		
6	月	19:00	医療安全対策セミナー(TV会議)			14:00	県民健康セミナー		
						16:00	県小児科医会役員会		
7	火	14:00	県献血推進協議会	20	月	14:00	宮大医学部医の倫理委員会	国 保 審 査	
		18:00	治験審査委員会			15:30	県精神科救急医療システム連絡調整委員会		
		19:00	第30回常任理事協議会			19:00	介護保険に関する主治医研修会(TV会議)		
8	水	13:00	日医医療政策シンポジウム(日医TV会議)	21	火	19:00	県麻しん風しん対策推進会議・広域化検討会議		
		13:30	全国国保組合協会理事長・役員研修会			10:30	医療費適正化計画策定検討委員会		
		16:00	支払基金幹事会			14:00	県ナースセンター事業運営委員会		
9	木	13:30	社会保険医療担当者の新規個別指導	22	水	18:00	医協打合せ会		
		18:00	県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会			19:00	第32回常任理事協議会		
		19:30	県産婦人科医会常任理事会			14:00	県地域・職域連携推進協議部会		
10	金	14:00	(日医)日医勤務医委員会	23	木	15:00	労災診療指導委員会		
		14:00	県社会福祉審議会			19:00	地域のちから・介護予防推進事業に関する連絡会		
		14:30	東九州メディカルバレー構想特別セミナー			13:00	(日医)医療事故調査制度に係る支援団体統括者セミナー		
		19:00	ロコモティブシンドローム予防講演会			19:00	県整形外科医会新規開業・勤務医向け研修会		
11	土	(建国記念の日)		24	金	19:30	宮崎市産婦健診説明会		
		13:00	(日医)日医医療情報システム協議会			18:00	九州地方社会保険医療協議会宮崎部会		
12	日	13:30	日本プライマリ・ケア学会九州支部総会	25	土	19:00	広報委員会		
		8:00	日本プライマリ・ケア学会九州支部総会			14:00	日医連医政活動研究会		
13	月	9:30	(日医)日医医療情報システム協議会	26	日	15:30	九州地区医師国保組合連合会理事会・全体協議会	社 保 審 査	
						16:00	創立128周年記念医学会		
14	火	18:00	県母子保健運営協議会	27	月	14:00	県がん診療連携協議会		
		19:00	第31回常任理事協議会			19:00	県内科医会評議員会		
15	水	13:00	社会保障審議会医療保険部会療養費検討専門委員会	28	火	18:15	医協理事会		
		14:00	県訪問看護推進協議会			19:00	第12回全理事協議会		
		14:00	県メディカルコントロール協議会			終了後	医協理事・運営委員合同協議会		
		19:00	日医認定産業医制度関係小委員会						

※都合により、変更になることがあります。  
 行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

## 宮 崎 県 医 師 会 行 事 予 定 表

平成29年1月31日

		3		月		
1	水	13:30	(日医)都道府県医師会介護保険担当理事連絡協議会	13	月	
		15:00	(日医)日医救急災害医療対策委員会	14	火	19:00 第4回理事会
				15	水	15:00 (日医)日医学術推進会議
2	木	19:00	ロコモティブシンドローム予防講演会	16	木	
3	金			17	金	19:00 医師国保組合通常組合会
4	土	9:00	ICLS指導者養成ワークショップ	18	土	15:00 母体保護法指定医師研修会
		15:25	県産婦人科医会ひむかセミナー			16:00 病院部会・医療法人部会医療従事者研修会
		17:20	九州医師協同組合連合会購買・保険部会	19	日	10:00 医療メディエーター研修会・復習編
		18:00	各郡市内科医会会長会			10:00 医師国保組合歩こう会
5	日	8:30	九州医師協同組合連合会購買・保険部会	20	月	10:00 (日医)日医学校保健講習会
		8:30	ACLS研修会			(春分の日)
		9:00	県産婦人科医会ひむかセミナー			9:00 医療メディエーター研修会・復習編
		10:00	レジナビフェア福岡			
6	月			21	火	15:00 県地域医療支援機構代表者会議
7	火	15:00	九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会実行委員会	22	水	19:00 第34回常任理事協議会
		18:00	治験審査委員会			15:00 県移植推進財団理事会
		19:00	第33回常任理事協議会			
8	水	16:00	支払基金幹事会	23	木	
9	木	19:30	県産婦人科医会全理事会	24	金	17:30 西諸医師会臨時総会
10	金	15:00	全国国保組合協会九州支部幹事会・総会	25	土	15:45 全国医師会医療秘書学院連絡協議会常任委員会
		12:00	県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会			16:15 全国医師会医療秘書学院連絡協議会運営委員会
		13:30	県認知症高齢者グループホーム連絡協議会総会・全体研修会			17:30 九医連常任委員会
11	土	13:30	臨床検査精度管理調査勉強会	26	日	9:00 (日医)九州ブロック日医代議員連絡会議
		14:00	医師クランク育成・スキルアップ研修会			9:30 (日医)日医臨時代議員会
		18:00	県内科医会総会・講演会			
		18:30	2020.30実現をめざす地区懇談会	27	月	
12	日	10:00	医師クランク育成・スキルアップ研修会	28	火	18:00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会
		10:30	(日医)都道府県医師会「警察活動に協力する医師の部会(仮称)」連絡協議会・学術大会			19:00 第35回常任理事協議会
						15:00 労災診療指導委員会
				29	水	15:00 県立病院事業評価委員会
				30	木	15:00 (日医)日医医療IT委員会
				31	金	

※都合により、変更になることがあります。  
 行事予定は県医師会のホームページからもご覧になれます。

## 医 学 会 ・ 講 演 会

### 日 本 医 師 会 生 涯 教 育 講 座 認 定 学 会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）

がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会（胃・大腸・肺・乳）

アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
第12回都城イメージカンファランス 2月1日(水) 19:15~20:45 都城ロイヤルホテル	慢性呼吸器疾患(COPD慢性閉塞性肺疾患等)の診断と治療—GOLD 2017改定の要点にも触れて— 平山内科クリニック院長 平山 正剛	45 (1.0)  79 (0.5)	◇主催 都城イメージカンファランス ◇共催 第一三共(株) (連絡先) 都城市北諸郡医師会 ☎0986-22-0711
第26回宮崎臨床免疫研究会 2月3日(金) 19:00~20:30 宮崎観光ホテル  参加費：1,000円	原発性免疫不全症の診断と治療法の現状と今後の展望 国立成育医療研究センター研究所 成育遺伝研究部長 小野寺 雅史	24 (0.5)  73 (0.5)	◇主催 宮崎臨床免疫研究会 ◇共催 宮崎県内科医会 ※旭化成ファーマ(株) ☎0985-28-2736
西諸医師会・西諸整形外科医会・西諸内科医会合同学術講演会 2月3日(金) 19:00~20:00 ガーデンベルズ小林	ドクターとしての国体帯同経験とその問題点 藤元総合病院整形外科部長 園田 典生	1 (1.0)	◇主催 ※西諸医師会 ☎0984-23-2113 ◇共催 西諸整形外科医会 西諸内科医会 日本臓器製薬(株)

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
延岡医学会学術講演会 2月3日(金) 19:00~20:30 ホテルメリージュ 延岡	当院におけるC型肝炎の治療成績と院内連携 宮崎県立延岡病院内科 大園 芳範	12 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 ギリアド・サイエンシズ(株) 宮崎大学医学部附属 病院肝疾患センター (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
	ウイルス肝炎最新情報 宮崎大学医学部附属病院肝疾患センター准教授 永田 賢治	27 (0.5)  73 (0.5)	
第3回認知症サ ポート医フォロー アップ研修会 (TV会議) 2月3日(金) 19:00~21:00 県医師会館(TV会 議場:都城・延 岡・日向・児湯・ 西都・南那珂・西 諸・西臼杵)	妻の入院手術をきっかけに明らかとなった夫の認知症 事例を介した医療連携の紹介 クリニックうしたに院長 牛谷 義秀	29 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118
	認知症での神経診察 宮崎東病院副院長 塩屋 敬一	29 (0.5)	
	認知症を捉えなおす 大悟病院認知症疾患医療センター院長 井上 輝彦	29 (0.5)	
	総合討論 宮崎県医師会常任理事 金丸 吉昌	29 (0.5)	
平成28年度宮崎県 医師会健康スポー ツ医学セミナー 2月4日(土) 16:00~17:00 県医師会館	高齢化に向かうなかでの高齢者スポーツについて 宮崎県体育協会副会長・宮崎大学名誉教授 廣田 彰	11 (1.0)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第172回 宮崎県眼科医会講習会</b> 2月4日(土) 16:30~19:00 宮崎観光ホテル 参加費:3,000円	<b>緑内障薬物治療アップデート</b> 福井大学医学部医学科感覚運動医学講座 眼科学領域教授 稲谷 大	36 (1.0)	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015 ◇共催 千寿製薬(株)
	<b>硝子体手術でのcutting edge</b> 杏林大学医学部眼科学教室教授 井上 真	36 (1.0)	
<b>第65回 神奈川胎児エコー研究会アドバンス講座</b> 2月4日(土) 12:55~18:15 2月5日(日) 9:00~17:30 宮崎大学医学部 附属病院 参加費:28,000円	(1日目 13:00~13:30) <b>胎児心エコーの取り方</b> 近畿大学医学部小児科学教室 稲村 昇	71 (0.5)	◇主催 神奈川胎児エコー研究会 (連絡先) 神奈川胎児エコー研究会事務局 ☎03-5332-3901
	(1日目 13:30~14:00) <b>未熟児の心エコーの取り方</b> 神奈川県立こども医療センター新生児科 豊島 勝昭	71 (0.5)	
	(1日目 14:00~14:30) <b>小児心エコーの取り方</b> 静岡県立こども病院循環器科 新居 正基	71 (0.5)	
	(1日目 16:00~16:30) <b>TOF/DORV(新生児)</b> 埼玉医科大学総合医療センター小児循環器科 増谷 聡	71 (0.5)	
	(1日目 16:30~17:00) <b>TOF/DORV(胎児)</b> 旭川厚生病院小児科 竹田津 未生	71 (0.5)	
	(1日目 17:15~17:45) <b>TAPVD(新生児)</b> 静岡県立こども病院循環器科 新居 正基	71 (0.5)	
	(1日目 17:45~18:15) <b>TAPVD(胎児)</b> 東北大学病院婦人科 川瀧 元良	71 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 が1検診)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第65回神奈川胎児 エコー研究会アド バンス講座</b> 2月4日(土) 12:55~18:15 2月5日(日) 9:00~17:30 宮崎大学医学部 附属病院 参加費 : 28,000円	(2日目 9:00~9:30) <b>PAVSD Truncus (新生児)</b> 静岡県立こども病院循環器科 田中 靖彦	71 (0.5)	◇主催 神奈川胎児エコー研究会 (連絡先) 神奈川胎児エコー研究会事務局 ☎03-5332-3901
	(2日目 9:30~10:00) <b>PAVSD Truncus (胎児)</b> 静岡県立こども病院循環器科 田中 靖彦	71 (0.5)	
	(2日目 10:00~10:30) <b>COA/IAA(新生児)</b> 神奈川県立こども医療センター循環器内科 金 基成	71 (0.5)	
	(2日目 10:30~11:00) <b>COA/IAA(胎児)</b> 長野県立こども病院循環器小児科 武井 黄太	71 (0.5)	
	(2日目 13:00~13:30) <b>critical AS(新生児)</b> 倉敷中央病院小児循環器科 林 知宏	71 (0.5)	
	(2日目 13:30~14:00) <b>critical AS(胎児)トロント小児病院での胎児治療</b> 九州大学病院小児科 永田 弾	71 (0.5)	
	(2日目 14:15~14:45) <b>頻脈性不整脈と胎児治療</b> 久留米大学病院小児科 前野 泰樹	71 (0.5)	
	(2日目 14:45~15:15) <b>QT延長症候群</b> 筑波大学附属病院小児科 堀米 仁志	71 (0.5)	
	(2日目 15:30~16:00) <b>STICを使った復習</b> 東北大学病院婦人科 川瀧 元良	71 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 がん検診)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第111回宮崎市郡 医師会病院心臓病 研究会</b> 2月6日(月) 18:50~20:30 宮崎観光ホテル	<b>PCIで血行再建された冠動脈疾患患者の二次予防 —糖尿病と脂質異常症について—</b> 宮崎市郡医師会病院 心臓病センター循環器内科医長 松浦 広英	73 (0.5)	◇主催 宮崎市郡医師会病院心臓病研究会 ◇共催 武田薬品工業(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119
	<b>震災と循環器疾患について</b> 久留米大学医学部心臓血管内科主任教授 福本 義弘	14 (0.5)	
<b>第5回都城地区在 宅医療講演会</b> 2月7日(火) 19:00~20:00 ホテル中山荘	<b>みんなでつくり、育てる在宅医療</b> 宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座教授 吉村 学	13 (0.5)  80 (0.5)	◇主催 都城市北諸県郡医師会 ◇後援 宮崎県医師会 都城市 三股町 宮崎県介護支援専門員協会 宮崎県訪問看護ステーション 連絡協議会県西ブロック (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711
<b>平成28年度医療 機関等結核対策研 修会</b> 2月8日(水) 18:30~20:00 延岡市社会教育 センター	<b>結核の診断と治療 —専門医療機関と一般医療機関の連携について—</b> 宮崎東病院呼吸器内科部長 伊井 敏彦	11 (0.5)  12 (0.5)	◇主催 延岡保健所 ◇後援 ※延岡市医師会 ☎0982-21-1300

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん機	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第109回江南医療連携の会症例検討会</b> 2月9日(木) 19:00~20:45 宮崎江南病院	<b>メトホルミン内服中に急性腎障害を生じ著明な代謝性アシドーシスを来した1例</b> 宮崎江南病院内科医長 馬場 明子	17 (0.5)	◇主催 江南医療連携の会 (連絡先) 宮崎江南病院 ☎0985-52-4004
	<b>当院におけるoblique triangular flapで指尖部再建症例の検討</b> 宮崎江南病院形成外科医員 伊藤 綾美	57 (0.5)	
	<b>造影剤起因性腎症について</b> 宮崎江南病院放射線科医員 古賀 治幸	17 (0.5)	
<b>宮崎県医師会産業医研修会</b> 2月10日(金) 19:00~21:00 県医師会館	<b>メンタルヘルス不全—病気療養期間に行うこと(Ⅱ)—</b> 産業保健相談員・西都病院 植田 勇人  生涯研修の専門研修会 : 2単位	1 (0.5)	◇主催 ※宮崎産業保健総合支援センター ☎0985-62-2511  ◇共催 宮崎県医師会
		5 (0.5)	
		11 (0.5)	
		70 (0.5)	
<b>第2回宮崎口コモ研修会</b> 2月10日(金) 19:00~20:00 日向保健所	<b>長寿社会、いつまでも歩き続けるためのロコモ対策</b> <u>延岡リハビリテーション病院長</u> 金井 一男	12 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎大学医学部整形外科 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科教室 ☎0985-85-0986

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 が単 位)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第9回宮崎脳神経外科懇話会</b> 2月10日(金) 19:00~21:00 宮崎観光ホテル	<b>脳梗塞予防における適切な抗血栓療法</b> <b>ー頭蓋内出血と消化管出血を回避する治療戦略ー</b> 九州医療センター脳血管・神経内科長 矢坂 正弘	73 (0.5)  78 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 武田薬品工業(株) (連絡先) 宮崎大学医学部臨床神経科学講座 ☎0985-85-1510
	<b>高齢者における脳神経外科手術</b> 関西医科大学脳神経外科教授 浅井 昭雄	34 (0.5)  35 (0.5)	
<b>延岡医学会学術講演会</b> 2月10日(金) 19:00~20:10 ホテルメリージュ 延岡	<b>心房細動治療の最前線</b> <b>ーアブレーション療法と抗凝固療法ー</b> 小倉記念病院循環器内科副部長 廣島 謙一	42 (0.5)  43 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 延岡西白杵郡薬剤師会 第一三共(株) ◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
<b>第32回宮崎県リウマチ研究会</b> <b>第25回宮崎リウマチのケア研究会</b> 2月11日(土) 15:30~18:00 ホテルスカイ タワー  参加費 : 1,000円	<b>リウマチ診療における地域医療連携とチーム医療</b> 丸の内病院リウマチ膠原病センター診療部長 山崎 秀	10 (1.0)	◇主催 宮崎県リウマチ研究会 ◇共催 宮崎リウマチのケア研究会 エーザイ(株) あゆみ製薬(株) (連絡先) 都城医療センター ☎0986-23-4111

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 が単 位)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第112回 宮崎市郡 医師会病院心臓病 研究会</b> 2月13日(月) 18:50~20:30 宮崎観光ホテル	<b>冠動脈疾患の二次予防としての脂質異常症管理の実際 について</b> 宮崎市郡医師会病院循環器内科医長 松浦 広英	75 (0.5)	◇主催 宮崎市郡医師会病院心臓病研究会 ◇共催 アステラス製薬(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119
	<b>重症冠攣縮性狭心症とVasospastic Heart Failure</b> 杏林大学医学部第二内科学教授 吉野 秀朗	9 (0.5)  15 (0.5)	
<b>南那珂医師会生涯 教育医学会</b> 2月16日(木) 18:50~20:00 南那珂医師会館	<b>スギ花粉症治療の実際 —アレルゲン免疫療法も含めて—</b> 宮崎県立日南病院耳鼻咽喉科医長 鳥原 康治	39 (1.0)	◇主催 ※南那珂医師会 ☎0987-23-3411 ◇共催 鳥居薬品(株)
<b>西諸医師会・西諸 内科医会合同学術 講演会</b> 2月17日(金) 19:00~20:30 ガーデンベルズ 小林	<b>糖尿病診療の現在と未来 —抗糖尿病薬の有効な使い方を含めて—</b> 宮崎大学医学部内科学講座 神経呼吸内分分泌代謝学分野助教 上野 浩晶	74 (0.5)	◇主催 ※西諸医師会 ☎0984-23-2113 ◇共催 西諸内科医会 アステラス製薬(株) MSD(株)
		76 (1.0)	
<b>第37回 宮崎呼吸器 乳腺懇話会</b> 2月17日(金) 19:00~21:00 ホテルメリージュ  参加費:500円	<b>呼吸器外科術前数日におけるCT再検査の有用性, 他</b> 宮崎大学医学部外科学講座 呼吸器・乳腺外科学分野准教授 富田 雅樹 他	7 (0.5)  19 (0.5)	◇主催 宮崎呼吸器乳腺懇話会 ◇共催 ※協和発酵キリン(株) ☎0985-22-8801
	<b>乳房MRIの現状と読影ポイント</b> ブレストピア宮崎病院放射線科・画像診断部長 中原 浩	4 (0.5)  11 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 が単 位)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>延岡医学会学術講演会</b> 2月17日(金) 19:00~20:30 ホテルメリージュ 延岡	<b>臨床医のための不眠診療のコツ</b> むさしクリニック院長 梶村 尚史	9 (0.5)  20 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 エーザイ(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
<b>第49回宮崎救急医学会</b> 2月18日(土) 13:00~18:30 宮崎大学医学部 講義実習棟2階 参加費:500円	<b>東日本大震災時における災害対応経験とその後の取り組み</b> <b>Medical response to the Great East Japan Earthquake and our efforts to prepare for future disasters</b> 東北大学病院総合地域医療教育支援部教授 石井 正	14 (1.0)	◇主催 宮崎救急医学会 (連絡先) 宮崎大学医学部病態解析医学講座 ☎0985-85-9547
<b>平成28年度かかりつけ医認知症対応力向上研修会(TV会議)</b> 2月18日(土) 14:30~18:00 県医師会館(TV会議場:都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸・西臼杵)	<b>かかりつけ医の役割, 他</b> 協和病院長 二宮 嘉正 他	4 (0.5)  5 (0.5)  11 (0.5)  12 (0.5)  13 (0.5)  19 (0.5)  29 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 ◇共催 宮崎県

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) が ん 検	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎市郡医師会園 医部会総会・講 演会 2月18日(土) 16:00~17:30 宮崎市郡医師会館	けがとやけどの手当て むろい皮ふ科・アレルギー科クリニック院長 室井 栄治	8 (0.5) 56 (0.5) 57 (0.5)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
宮崎県医師会勤務 医部会後期講演会 2月18日(土) 16:00~18:00 宮崎観光ホテル	胆膵疾患診療における超音波内視鏡診断・治療：現状 と新展開 宮崎大学医学部消化器内科学講座教授 河上 洋	7 (0.5) 15 (0.5)	◇主催 ※宮崎県医師会勤務医部会 ☎0985-22-2815
	統一国家日本を創った日向神話 井村 尚樹	0 (0.5) 1 (0.5)	
平成28年度介護保 険に関する主治医 研修会(TV会議) 2月20日(月) 19:00~22:00 県医師会館(TV会 議場：都城・延 岡・日向・児湯・ 西都・南那珂・西 諸・西臼杵)	主治医意見書の記載方法および主治医意見書記載事例 検討 早稲田クリニック副院長 荒武 宜寿 他	2 (0.5) 6 (0.5) 10 (0.5) 12 (0.5) 13 (0.5) 29 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 ◇共催 宮崎県

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん機	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
平成28年度うつ病 等医療連携システ ム推進事業研修会 2月21日(火) 19:00~20:30 宮崎市保健所	最新!! うつ病の知識 ー見逃したくない兆候・身体症状・対応のポイントー 久留米大学医学部長 神経精神医学講座医学部長 内村 直尚	70 (1.0)	◇主催 ※宮崎市健康支援課 ☎0985-29-5286
地域医療構想に関 する講演会 2月22日(水) 19:00~20:00 宮崎市郡医師会館	地域医療構想調整会議のためのデータに関する講演 宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター長 鈴木 斎王	12 (1.0)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
宮崎市郡内科医会 学術講演会 2月28日(火) 19:35~20:35 宮崎観光ホテル	合併症発症・進展阻止を見据えた糖尿病治療 滋賀医科大学糖尿病内分泌・腎臓内科教授 前川 聡	9 (0.5) 76 (0.5)	◇主催 宮崎市郡内科医会 ◇共催 日本イーライリリー(株) 日本ベーリンガーインゲルハイム(株) (連絡先) 宮崎市郡医師会 ☎0985-53-3434
第3回宮崎口コモ 研修会 3月2日(木) 19:00~20:00 小林保健所	歩ける喜び口コモ予防 ー口コモ予防で心もからだも健康長寿ー 宮崎大学医学部整形外科教授 帖佐 悦男	13 (1.0)	◇主催 宮崎県医師会 ◇共催 宮崎大学医学部整形外科 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科学教室 ☎0985-85-0986
延岡医学会学術講 演会 3月2日(木) 19:15~20:30 ホテルメリージュ 延岡	炎症性腸疾患の診断と治療 宮崎大学医学部内科学講座 消化器血液学分野講師 山本 章二郎	53 (0.5) 54 (0.5)	◇主催 延岡医学会 ◇共催 田辺三菱製薬(株) (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300

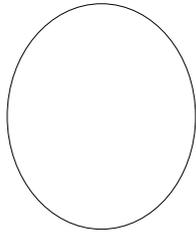
名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第55回ひむか運動器セミナー</b> 3月4日(土) 16:30~18:30 宮崎観光ホテル  参加費:500円	<b>慢性腰痛症に対する当院の取り組み</b> 琉球大学医学部附属病院整形外科助教 六角 高祥	60 (0.5)  63 (0.5)	◇主催 ひむか運動器セミナー ◇共催 ※日本イーライリリー(株) ☎092-724-0450 塩野義製薬(株)
	<b>運動器疼痛におけるデュロキセチン塩酸塩の立ち位置を考える</b> 広島赤十字・原爆病院第二整形外科副部長 柳澤 義和	61 (0.5)  73 (0.5)	
<b>平成28年度第2回日本東洋医学会福岡県部会宮崎中継</b> 3月5日(日) 13:00~16:00 宮崎大学医学部総合教育研究棟  参加費:3,000円	<b>下痢と便秘の漢方治療</b> 飯塚病院漢方診療科部長 田原 英一	54 (0.5)	◇主催 ※日本東洋医学会九州支部宮崎県部会 ☎0985-85-0988 ◇共催 日本東洋医学会九州支部福岡県部会 宮崎県医師会東洋医学会
	<b>過敏性腸症候群の腹痛に対する心身医学的治療について</b> 九州大学医学研究院心身医学准教授 岡 孝和	53 (0.5)	
	<b>腹診の実技</b> 宮崎大学医学部産婦人科病院教授 山口 昌俊	83 (1.0)	
<b>第1回宮崎骨粗鬆症えれこっちゃんの会</b> 3月8日(水) 19:00~21:00 宮崎観光ホテル	<b>地域で診る骨粗鬆症</b> 獅子目整形外科病院副院長 獅子目 亨	10 (0.5)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ※ファイザー(株) ☎080-5059-2580
	<b>骨粗鬆症治療の現状と展望</b> 三財病院副院長 松本 英裕	77 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん検診	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
宮崎県医師会産業 医研修会 3月11日(土) 14:30~16:30 宮崎市郡医師会館	騒音対策と騒音測定の実際 宮崎大学医学部社会医学講座 公衆衛生学分野教授 黒田 嘉紀 基礎研修・生涯研修の現地研修会 : 2単位	0 (0.5) 3 (0.5) 9 (0.5) 11 (0.5)	◇主催 ※宮崎市郡医師会 0985-53-3434
宮崎県内科医会総 会・学術講演会 3月11日(土) 18:00~19:45 県医師会館	フレイルとサルコペニアについて-最近の知見から- 桜美林大学老年学総合研究所長・大学院教授 鈴木 隆雄	19 (0.5) 22 (0.5)	◇主催 ※宮崎県内科医会 ☎0985-22-5118 ◇共催 大正富山医薬品(株)
延岡医学会学術講 演会(宮崎県北地 区消化器内視鏡懇 談会) 3月14日(火) 18:50~20:00 ホテルメリージュ 延岡	大腸腫瘍性病変に対する内視鏡診断 -診断の基礎と応用- 札幌医科大学消化器内科学講座 消化器内視鏡センター准教授 山野 泰穂	1 (0.5) 15 (0.5) ①大腸	◇主催 延岡医学会 ◇共催 宮崎県北地区消化器内視鏡懇談会 画像診断研究会 EAファーマ(株) エーザイ(株) ◇後援 延岡内科医会 (連絡先) 延岡市医師会 ☎0982-21-1300
OABフォーラム in宮崎 3月23日(木) 19:00~20:10 宮崎観光ホテル	UUI(切迫性尿失禁)を考慮した過活動膀胱の治療 村岡泌尿器科内科学院長 村岡 敬介	65 (1.0)	◇主催 宮崎県内科医会 ◇共催 ファイザー(株) (連絡先) ファイザー(株)宮崎営業所 ☎092-281-7031

名称・日時・場所	演 題	CC (単位) がん機	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第56回 宮崎県スポーツ学会</b> 3月25日(土) 15:00~19:00 宮日会館  参加費:1,000円	<b>アンチ・ドーピングの最新情報</b> 早稲田大学スポーツ科学学術院教授 赤間 高雄	7 (1.0)	◇主催 宮崎県スポーツ学会 ◇共催 久光製薬(株) ◇後援 宮崎県医師会 (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科学教室 ☎0985-85-0986
<b>宮崎県医師会東洋医会</b> 3月25日(土) 17:30~19:00 KITEN	<b>よく使う漢方薬の本当の使い方</b> 飯塚病院漢方診療科 土倉 潤一郎	9 (0.5)  12 (0.5)  83 (0.5)	◇主催 宮崎県医師会東洋医会 ◇共催 ※(株)ツムラ ☎0985-28-9663
<b>第56回ひむか運動器セミナー</b> 4月1日(土) 15:50~18:30 シーガイアコンベンションセンター  参加費:500円	<b>日常診療で遭遇する軟骨下脆弱性骨折 —診断と治療のポイント—</b> 福岡大学医学部整形外科学教室教授 山本 卓明	57 (0.5)  61 (0.5)	◇主催 ひむか運動器セミナー ◇共催 エーザイ(株) ※アッヴィ合同会社 ☎03-4577-1149
	<b>変形性股関節症の病態と治療</b> 九州大学医学研究院整形外科学教室教授 中島 康晴	61 (0.5)  73 (0.5)	

名称・日時・場所	演 題	CC (単位 がん検診)	主催・共催・後援 ※ = 連絡先
<b>第57回ひむか運動器セミナー</b> 4月4日(火) 19:00~20:10 宮崎観光ホテル  参加費:500円	<b>前十字靭帯再建術: 腱固定から解剖学的再建へ</b> 行岡病院スポーツ整形外科センター長 大阪行岡医療大学教授 史野 根生	57 (0.5)  61 (0.5)	◇主催 ひむか運動器セミナー ◇共催 ※スミス・アンド・ニューメーション ☎092-452-0143
<b>第1回宮崎外傷研究会</b> 4月14日(金) 18:40~20:30 宮崎大学医学部 臨床講義室  参加費:500円	<b>骨盤骨折の治療戦略-初期治療から脆弱性骨折まで</b> 明理会中央総合病院副院長兼整形外科部長 大泉 旭	57 (0.5)  77 (0.5)	◇主催 宮崎外傷研究会 ◇共催 科研製薬(株) (連絡先) 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986

## 診療メモ



## 弁膜症に対する心臓カテーテル治療の進歩 —経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)を中心に—

宮崎市郡医師会病院心臓病センター循環器内科

ふる げん まこと しば た よし さと  
古 堅 真, 柴 田 剛 徳

心疾患の中でも弁膜症の罹患率は年齢とともに高くなり、進行した弁膜症に対する根本的治療は外科手術となります。昨今の高齢化社会を反映して弁膜症患者さんの数は年々増加しています。弁膜症の手術件数は毎年増加の一途を辿り、10年前と比較して日本全体での手術件数は約2倍となってきました。弁膜症に対する外科手術手技の進歩はめざましいものがあり、現在のような良好な治療成績が得られるようになってきました。

一方、心血管疾患に対するカテーテル治療の発展に伴い、構造的な心疾患(structural heart disease; SHD)という概念が広まってきました。成人領域においては、先天性心疾患、弁膜症、大動脈や肺動脈疾患も含まれ、インターベンションの適応となる疾患が多岐に渡るようになってきました。

本邦でも以前から、小児領域の先天性心疾患を中心にカテーテル治療が行われてきましたが、この数年間で成人の心疾患におけるカテーテル治療が進歩してきています。その先駆けとなったのが、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)の導入です。

TAVIはフランスのルーアン大学・循環器内科のAlain Cribier教授により考案され2002年に第1例が行われました。当時は周術期死亡も多く30日死亡率が11%との報告が出ていた時期もありましたが、データを積み重ね、デバイスの改良もあり安全性が向上し、2011年にアメリカでの大規模臨床試験であるPARTNER試験の結果が米国心臓病学会において、術後1年後の全死亡は外科的大動脈弁置換術と有意差がつかなかったことが発表されました。日本では2013年10月に保険償還され、現在、日本では約100施設が施設認定を受けて治療を行っており、30日死亡率が2.0%未満と世界でもトップクラスの成績となっております。現在宮崎県では宮崎市郡医師会病院心臓病センター(2016年4月に

認可)が唯一のTAVI認可施設としてTAVIによる治療を行っております。

TAVIはカテーテルを用いて心臓を止めることなく人工弁(生体弁)を留置するため、開胸手術に比べるとはるかに低侵襲の治療です。そのため、今までは年齢やその他の併存疾患・全身状態により外科手術を受けることが出来ず保存的治療のみで加療していくしかなかった患者さんに対しては、治療の選択肢が増え、症状を軽減することが可能になったことは大きなメリットと言えます。しかし現時点では、外科手術が可能と判断された場合にはTAVIの適応とはならず、TAVIの対象となるのは通常の外科的弁置換術が困難な症例とされており、自ずと全身状態が良くない症例が適応となってきます。そうすると、合併症を生じるリスクが高くなるなどの問題点があります。

実際TAVIの適応となる症例は、超高齢であったり、併存疾患により手術リスクが高い症例となり、個々の患者さんの背景は外科的手術が可能で症例よりも全身状態が不良となっている場合が多く、治療に伴い合併症が生じると致死的になる可能性が出てくるため、治療適応については慎重な判断が必要です。治療の適応は、院内ハートチームにより検討しております。『ハートチーム』とは、循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、放射線科などの複数の診療科とコメディカルから構成されており、各領域のエキスパートが集まり、術前から術後まで関与していきます。TAVI治療が循環器疾患領域に大きく変化をもたらしたものの一つは、この『ハートチーム』という概念と思われれます。今までも各科連携で一人の患者さんの治療を行っていくことはありましたが、『ハートチーム』は更に濃密に関与し、治療適応から手技上の注意点などのディスカッションを行い、『ハートチーム』として治療を行うことで各科の距離が以前よりも縮まり、個々の得意分野を生かしたチームとして機能しています。



図 1 ; trans-femoral approach



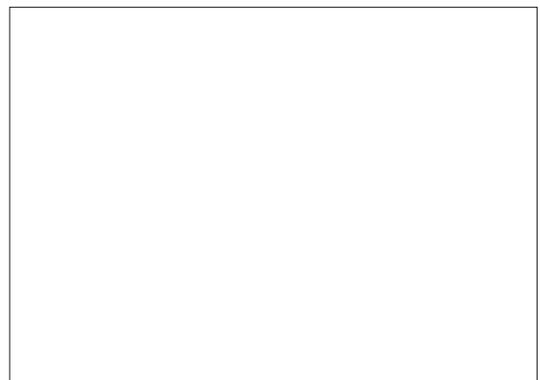
図 2 ; trans-apical approach

TAVIには基本的に二通りのアプローチ方法があります。鼠径部にカテーテルを挿入する方法(trans-femoral approach ; 図1)と、第5または6肋間を5 cm程切開して左室心尖部からカテーテルを挿入する方法(trans-apical approach ; 図2)です。いずれの方法が望ましいのかは、心エコーやCTなどを基に検討されるため、術前検査の解析が非常に重要となります。

TAVIのアキレス腱と言われている問題点が2つあります。一つは、術後の弁周囲逆流です。石灰化の強い弁にステントで出来ている人工弁を留置するため、自己弁の石灰化とステントとの間に少なからず隙間が生じてしまうため、そこから血液の逆流が生じてしまいます。術前よりも逆流量が多くなると心不全を生じてしまいますし、最近では、逆流量が少なくても長期予後に影響を与えるという結果が示されています。逆流量を減らすために弁を大きく拡張するとヴァルサルバ洞破裂、大動脈弁輪破裂や上行大動脈解離などの合併症を生じるリスクが高くなるため、ある程度の逆流は許容せざるを得ない状況が出てきます。また、もう一つの問題点は、完全房室ブロックを生じてしまいペースメーカー植え込みが必要になる可能性が8%前後あるということです。機序としては、留置した人工弁が心室中隔の刺激伝導系に影響することで生じると考えられています。ペースメーカーの留置が必要となる因子は報告されており、可能な限り完全房室ブロックを避けるよう

な人工弁の留置位置などが検討されています。このような合併症を未然に防ぐには術前の画像診断に基づくスクリーニングが重要です。

現在、TAVIは開心術が高リスクである症例が適応となっておりますが、海外では中等度リスク群における臨床試験が進んでおり、治療成績が開心術と同等との結果が示され治療適応が拡大される方向で進んでおります。また、本邦では透析症例はTAVIの適応ではないのですが、このような症例にも臨床試験が始まっており、数年後には適応拡大になることが予想されます。さらに、僧帽弁逆流症に対するカテーテル治療の国内治験も開始され、今後は、弁膜症治療のパラダイムシフトが期待されます。



ハートチームのミーティング

## 宮大医学部学生のページ

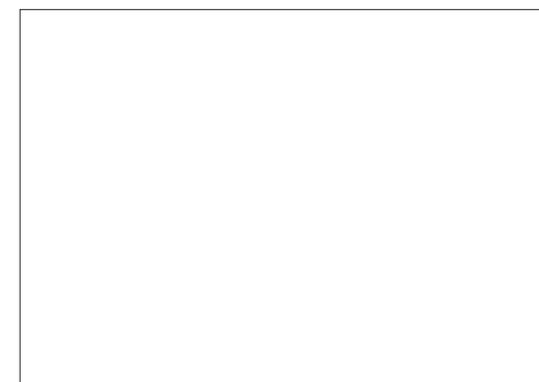
宮崎の医療を考える会(若手記者との勉強会)  
～宮崎県の救急医療体制の現状と課題～宮崎大学医学部医学科5年 佐 井 佳 世  
宮崎県医師会学生広報委員

今回の宮大医学部学生のページでは宮崎県医師会広報委員会に参加させていただいている学生広報委員より、昨年11月30日に開催いたしました「宮崎の医療を考える会(若手記者との勉強会)」についてご報告いたします。

「宮崎の医療を考える会」とは、宮崎県医師会広報委員会が主催して県内報道機関から主に若手記者の方々を中心としてお招きして開いている勉強会のことです。記者の方々に詳しく知っていただきたい医療に関連したテーマを定めて広報委員の先生方や学生がプレゼンテーションを行い、その後、質疑応答や意見交換などを行うことによってテーマに対するお互いの理解を深めることを目的として平成19年から開催しています。第7回目となる今回はテーマを「宮崎県の救急医療体制の現状と課題」として開催させていただきました。以下に内容をご紹介します。

宮崎の医療を考える会は、宮崎県医師会常任理事・荒木先生の挨拶から始まり、まずは広報委員会委員長・沖田先生から県内の救急医療体制の現状についての概説がありました。

ここでは救急医療を構成する一次救急、二次救急、三次救急について触れ、本県では全国平均よりも119番通報を受けてから現場到着までの平均時間が長いこと、また重症以上傷病者の転院搬送割合が多いことなどの問題点が挙げられました。この理由として、人口分布に対する消防署の配置の不適合や県内に基幹病院が少な



いことなどが考察されました。

次に、学生広報委員より宮崎大学医学部附属病院救命救急センターの紹介があり、ここでは、センターの運用体制について触れ、専従医師14名による2交代制がとられていること、日勤・夜勤ともに3～4名の専従医師が勤務していることやドクターヘリ・ドクターカーの運用実績や現状について述べられました。またセンター長・落合教授から伺った、『救急体制をうまく機能させるためには県内を県北・県央・県南・県西の4つのエリアに分割し各エリア毎に救急拠点病院を設け、そこで対応できない重症患者を宮大のセンターで受け入れるという合理的な体制作りが望まれ、その実現のためにはマンパワーの拡充が喫緊の課題である』との考えも紹介させていただきました。

続いて、県立宮崎病院・中村先生より県立宮崎病院救命救急センターの現状についてご説明していただきました。ここでは、平成27年度の

救急車件数が3,946件と大学の1,297件に比べてとても多かったこと、平日日勤帯は常勤医師3名・レジデント1名・研修医3～4名で救急車対応とドクターカー運用をしていること、休日夜間は主直1名(救急医とは限らない)+副直(研修医・レジデント)2名の3名体制であるため全ての救急患者を受け入れるのは難しい状況であることなどをお話いただきました。また、現在の状況の改善策として受診する側の意識改革の促進・かかりつけ医の役割強化・救急専従医の育成などが挙げられました。

次に、たんぼぼ小児科・山崎先生より小児の救急医療に関してのお話があり、ここでは宮崎県において小児科医の高年齢化が進んでおり、このままでは宮崎市夜間急病センター小児科の当直体制の維持が現状よりもさらに厳しくなるという問題や、宮崎県小児救急医療電話相談(#8000)について詳しく伺うことができました。急病センター来院患者数は平成11年度の5,720人から平成21年度の12,646人と10年間で2倍以上に増加しているものの、ここ数年は10,000人前後と横ばいになっており、平成17年度から小児救急医療電話相談が設置されたことも鑑みると、このサービスは不要な受診の抑制に一定の効果をあげていると推測されました。

続いて周産期救急についてうえやま貴子クリニック・上山先生にご説明していただきました。ここでは、一次施設での妊婦検診によるスクリーニングでハイリスクと評価した場合は二次施設に送るというシステムの確立により、開業医でのハイリスク出産の減少・訴訟リスクの回避などの面で開業医の負担は大きく軽減されたものの、ハイリスク症例は増加傾向にあるという現状を説明していただきました。また、本県では産婦人科医師の高年齢化が進んでおり10

年後には10%以上の産婦人科医師数減少が見込まれる自治体の一つであるため、将来的には分娩施設の縮小も懸念されること、産科医療の充実のためにはやはり産婦人科医の育成が鍵となることなどが述べられました。

最後に学生広報委員から、宮崎大学医学部の4～6年生に対して行った救急医療に対するイメージや初期研修・後期研修の希望地域、将来の希望診療科についてのアンケート結果を発表させていただきました。アンケートの結果として、希望診療科として救急と答えた人は4～6年生計302人中では20人いたものの、6年生計103人中では2人となっており、救急医療に対して病院実習前に抱くイメージと5・6年生時に病院実習を経験した後のそれとの間にギャップがあるのではないかと考えられました。

今回の会の開催にあたり、学生広報委員として宮崎大学医学部附属病院救命救急センターについてのインタビューに同席する機会を得て、またその他の基幹病院などにおいて第一線で活躍されている先生方のお話を伺うことができ、これまで曖昧な捉え方しかできていなかった宮崎県における救急医療とその問題点についての理解を深めることができたと感じています。いずれの先生方のお話でも医師数の不足が問題として挙げられましたが、宮崎大学医学部学生に対して行ったアンケートでは、6年生の宮崎県での後期研修希望者計52人のうち希望診療科はそれぞれ救急科1人、小児科9人、産婦人科5人という結果でした。今後、宮崎大学医学部の卒業生が宮崎に残るという流れができ、医師数の不足が徐々に改善されることが望めます。全体を通して、宮崎県における医療について改めて考える貴重な機会となりました。

## お知らせ

県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましても、会員専用ページをご覧ください。所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名、パスワードが必要です。県医師会にお問い合わせください。また、MMA通信(県医師会から会員への情報提供メーリングリスト)でも本文書について随時お知らせしていますので、まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。県医師会学術広報課(TEL 0985-22-5118)までご連絡ください。

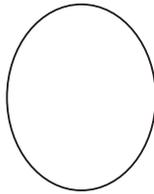
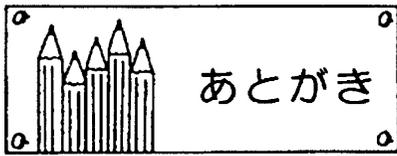
送付日	文 書 名
12月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第15回集計報告」ならびに「薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業平成27年年報」の周知について</li> <li>・「高難度新規医療技術の導入に当たっての基本的な考え方」について</li> <li>・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて</li> </ul>
12月 8 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康経営優良法人認定制度について</li> <li>・厚生労働科学特別研究「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」について</li> </ul>
12月 9 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府「地区防災計画」説明会の開催について</li> <li>・「平成28年度介護報酬改定検証・研究調査への協力依頼について(再協力依頼)」の送付について</li> <li>・「大量調理施設衛生管理マニュアル」の改正に伴う留意点について</li> <li>・使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正等について</li> <li>・高病原性鳥インフルエンザ(H5亜型)が疑われる事例の発生について</li> <li>・結核に関する特定感染症予防指針の一部改正について</li> <li>・「結核登録票に登録されている者の病状把握の適正な実施について」の一部改正について</li> <li>・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の公布及び施行について</li> <li>・「結核患者に対するDOTS(直接服薬確認療法)の推進について」の一部改正について</li> <li>・「活動性分類等について」の一部改正について</li> <li>・高病原性鳥インフルエンザに関する対策等について</li> <li>・鹿児島県で採取された環境試料(ツルのねぐらの水)における高病原性鳥インフルエンザウイルスの確定検査陽性事例について</li> <li>・児童福祉法の規定に基づく療育の給付、措置等に係る医療の給付に関する取扱いについて</li> <li>・「使用上の注意」の改訂について</li> <li>・ポラプレジンの「使用上の注意」改訂の周知について</li> <li>・ミルナシプラン塩酸塩、デュロキセチン塩酸塩及びベンラファキシン塩酸塩の「使用上の注意」改訂の周知について</li> <li>・総務省取りまとめによる「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器等へ及ぼす影響を防止するための指針」(平成28年11月改訂版)の送付について</li> <li>・医療機関における安全管理について</li> <li>・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて</li> </ul>
12月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共済組合員証の無効通知について</li> </ul>

送付日	文 書 名
12月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正について(平成28年度緊急薬価改定)</li> <li>・公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて</li> <li>・第22回日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会の開催について</li> </ul>
12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度災害医療講演会の開催について</li> <li>・「病原微生物検出情報」の送付について</li> <li>・抗インフルエンザウイルス薬の使用上の注意に関する注意喚起の徹底について</li> <li>・医療機関等におけるノロウイルスの院内感染予防対策の徹底について</li> <li>・労働災害防止対策の徹底について(緊急要請)</li> <li>・平成28年度環境省事業「電子マニフェスト導入実務研修会」の開催について</li> <li>・NBCR対策推進機構第2回「核テロ・核災害対策担当者養成講習会」の開催について</li> <li>・地域包括支援センターの運営費に関する地域支援事業交付金の算定方法について</li> <li>・介護保険医療系サービスのみなし指定に関する手続きについて</li> </ul>
12月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年「はたちの献血」キャンペーンの実施について</li> </ul>
12月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて</li> <li>・厚生労働省「病院・診療所等のスプリンクラー整備状況調査」及び「平成28年度に有床診療所等スプリンクラー施設整備事業の事業計画書の提出」について</li> </ul>
12月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民健康保険被保険者証を無効とすることについて</li> </ul>
12月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出産育児一時金等の支給申請及び支払方法について」の一部改正等について</li> </ul>

.....

あなたできますか？(解答)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
a, d	d	c	c	b	d, e	e	c	e	a, e



ついこの間大学に入ったばかりのような気がしていましたが、あと1か月ほどでポリクリも終わり、今年はいよいよ6年生になります。新年度に向けて抱負と呼べるほどのものではありませんが、研修は体力勝負と先輩方からうかがったので体力作りのためにここ数年遠のいていた自転車通学を4月から再開しようと考えています。といっても、アパートから大学へはたった3km弱ほどで大した距離ではないのですが…。

趣味の面では今まで手掛けたことのないもの、例えばサーフィンやマラソンに挑戦してみたいと考えています。サーフィンをするために宮崎に移住する人もいるという話を聞いて、せっかく宮崎にいながら一度も経験しないまま学生時代を終えてしまうのはもったいないと感じたので今年こそは挑戦しようと思います。マラソンは現在週3回ほどのペースで友人と続けているジョギングの延長で、短い距離からでもいいので大勢の参加者と共に走る楽しさを共有してみたいと思っています。

また、医師になると仕事が忙しくてどうしても職場以外で人と知り合う機会が少なく、視野が狭くなってしまっているのではないかと思うので、時間のある今のうちに自分の知らない世界の人たちとも積極的に交流を深め、新しい考え方や価値観に触れてみたいとも考えています。

兎にも角にも学生生活最後の1年。悔いのないように、国家試験を控えた身として勉強はもちろんのこと、遊びにも全力で取り組んでいきたいと思っています。(佐井)

* * *

毎年福岡で行われる小児整形外科研修会に行ってきました。連続7時間あり、普段みることが少ない小児先天性疾患、腫瘍などのスペシャリストの講演をまとめて聴くことができます。知識の更新のため2年に一度は行くことにしていますが、7時間はかなり疲れます。受験生のときは、おもしろくもない講義7時間に朝・夕課外があり実質9時間。さらに帰宅後塾に行き、0時近くまで課題をこなしていたような気がします。今では絶対無理！若いってすごい。(岡本)

* * *

我が家の愛犬(ラブラドル、4歳♀)の体調が悪くなった。朝から風の強い日ではあったが、ブルブル震えていて、元気も食欲もないので動物病院へ。熱は40℃、検査の結果、細菌感染症と診断された。午後5時過ぎから7時前まで約2時間を要した。愛犬は処置を受け翌日には元気になったのだが、いつもの活気がないとやはり心配になる。家族の一員なんだと実感させられ、また、患者さんの立場も経験させてもらった。愛犬よ、これからもよろしく。(山崎)

* * *

牛井も好きです。そば屋や定食屋で供されるものも悪くはありませんが、牛井に限ってはチェーン店のものが好きです。私が学生時代を過ごした愛媛は食文化が関西系でしたので牛井屋が多く、いろいろ食べ比べましたから断然吉野家がうまいと思っています。米国産ショートプレート(いわゆるバラ肉)にこだわったコクのある味は他社とは一線を画していると思います。つゆだく、ねぎだく、とろだく、赤多め等の裏技もありますが、肉と同量程度の大量の紅しょうがを井中央に埋め込み、唐辛子を井表面がオレンジ色になるくらいまでふりかけて食べるのが玄人？流です。卒業後は主に福岡で働いていましたが自宅、勤務先、外勤先ともに近所に吉野家があり1日3食牛井ということもありました。まさに僕の青春？の味です。BSE問題で2004年2月11日から数年間、牛井の販売が中止になったことがあります。その日は自分の結婚式の日で、新婦である妻と午後からの結婚式の前に2人して吉野家に繰り出し「並みのつゆだく」を食したのが思い出です。現在でも株主ということもあって年に6,000円分の食券が届

きますので、月2~3回は食べています。食べるといつも心の底からウマイと思える自分がいて、まだまだ若い、青春だと自己満足にふけている今日この頃です。(稲倉)

* * *

お正月気分も束の間、あつという間に一月も後半に入り、暦通り、一年で一番寒い“大寒”を迎えました。今日は、本当に寒い！すでに、インフルエンザも流行しており、最小限の外出をしよう、あまりうるうるせずさっさと帰宅している今日この頃です。しかし、通勤途中にある一軒家の“梅”の木は、ぼつぼつとほころびはじめており、まだ少しですが、花が咲いているのを見ると、春はもうすぐそこまで来ているんだ…ということを感じました。2月号の日州医事がお手元に届くころは、“立春”も過ぎているころだと思えます。短い冬をもう少し楽しもうと思いました。(上山)

* * *

OSCE(Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験)、CBT(Computer-Based Testing)という4年生の山場を越え、ひと段落着いたという実感がやつと湧いてきた。医学部に入ってから勉強に続く勉強の連続で、大学受験などと比較しても、これまでの人生の中でこれほど知識を詰め込んだ記憶はなかった気がする。時折、音を上げそうにもなるが、将来これらの知識が間違いなく自分を助けてくれるはずと信じてモチベーションを維持している。無事に進級できればいよいよ病院実習。新たな環境で学べるのが今から楽しみである。(柴野)

* * *

60歳を過ぎてバセドウ病になりました。今までは若い女性がかかる病気と理解していました。日医ニュースによると高齢者の甲状腺機能異常が増加しているとのこと。高齢者のバセドウ病は眼症状や甲状腺腫を伴わないことが多いこと、また甲状腺機能低下症であれば症状が加齢によるものと判断されてしまうことなどから診断が遅れるそうです。私の場合はテニス時の息切れと頻脈で気づきました。(佐々木)

* * *

## 今 月 の ト ピ ッ ク ス

**日州医談** 女性医師保育支援サービスモデル事業

女性医師の割合は徐々に増加しており、現在、本邦では医学部入学者に占める女性の割合は約3分の1となっています。さらに新臨床研修制度の影響等で医師の地域偏在に拍車がかかり地域医療の崩壊が懸念されているなか、妊娠・出産後も女性医師が継続して活躍できることが期待されています。女性医師が安心して働き続けられるための環境整備の一つである、宮崎県医師会女性医師保育支援サービスモデル事業に関して、荒木早苗常任理事より報告していただきました。

4 ページ

**新春随想** (その2)

先月号に続いて、14編の新春随想を掲載します。多数の投稿をいただきありがとうございました。今回も読み応えのある作品ばかりです。どうぞお楽しみください。私も谷中に行きたくなりました。

6 ページ

**診療メモ** 弁膜症に対する心臓カテーテル治療の進歩  
—経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI/TAVR)を中心に—

昨年6月、本県初の経カテーテル的大動脈弁置換術が宮崎市郡医師会病院で施行されました。同7月の宮崎日日新聞に記事が掲載されたため県民にも広く知られていることでしょう。大動脈弁狭窄症の手術で心臓を止めず、人工心肺を回さずに治療ができるとは、カテーテル治療の進歩に驚嘆です。この治療には複数の診療科やコメディカルからなる強固な「ハートチーム」の形成が必要とのこと。本県唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術認可施設である宮崎市郡医師会病院心臓病センターの古堅真先生、柴田剛徳先生に解説していただきました。

74 ページ

**日 州 医 事 第810号(平成29年 2 月号)**(毎月 1 回10日発行)

発行人 公益社団法人 宮 崎 県 医 師 会 会長 河野 雅行  
〒880-0023 宮崎市和知川原 1 丁目101番地 TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550  
<http://www.miyazaki.med.or.jp/> E-mail:office@miyazaki.med.or.jp

編 集 宮崎県医師会広報委員会

委 員 長 沖田 和久・副委員長 西田 隆昭, 岡本健太郎  
委 員 中村 豪, 野村 勝政, 押川 隆, 馬場 萌子  
山崎 俊輔, 稲倉 琢也, 上山 貴子, 佐井 佳世, 柴野 雅資  
担当副会長 富田 雄二・担当理事 荒木 早苗, 佐々木 究  
事 務 局 学術広報課 立山 幸恵, 牧野 諭

印刷所 有限会社 ケイ・プロデュース・落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。

定 価 350円(但し、県医師会員の購読料は会費に含めて徴収してあります)